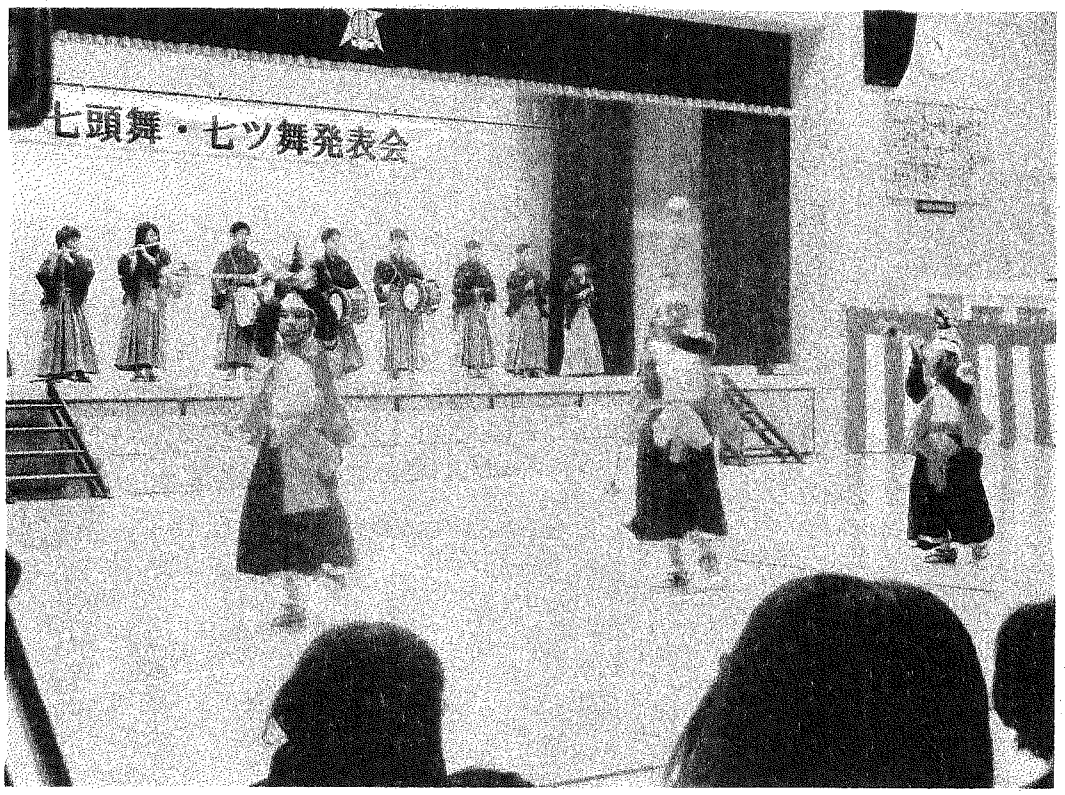
平成２８年度（第６０回）
岩手県教育研究発表会発表資料

# いきる　かかわる　そなえる

## 生き抜く力を育むための防災教育の推進

### 主体的・協働的な教育活動および小中連携の取組を通して




平成２９年２月１０日
岩 泉 町 教 育 委 員 会
岩泉町立小本中学校
副校長　小田島　雄
岩泉町立小本小学校
教　諭　豊岡　百代子

## Ⅰ　学区・学校の様子

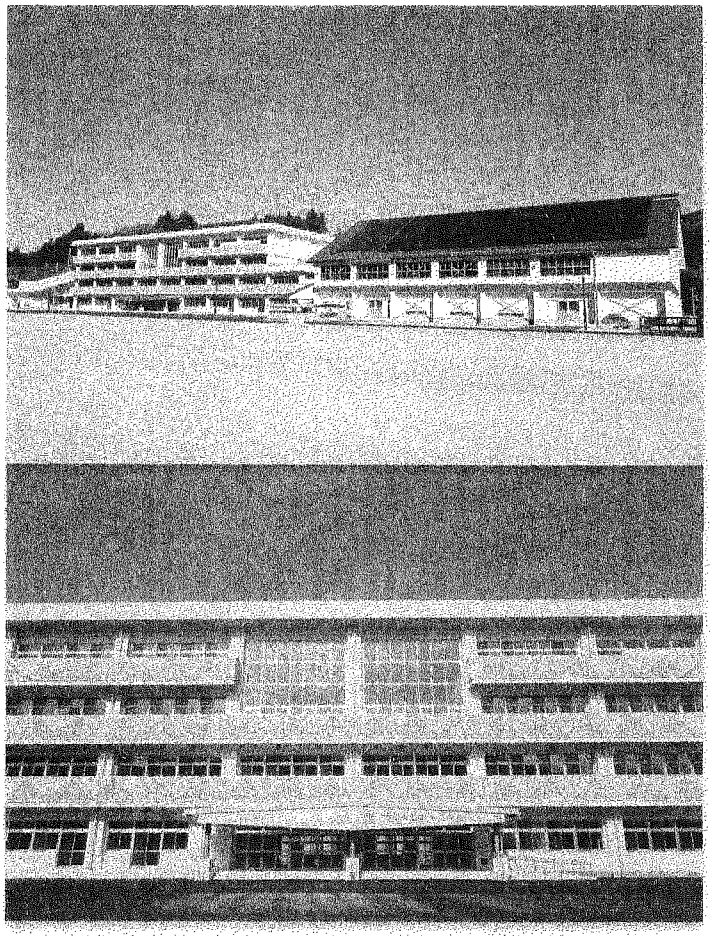
### 1　地域について

小本地域は，小本，茂師，小成，大牛内，中野，中島，中里，畏野地区からなり，岩泉町の東側に位置する。岩泉町で唯一海に面した地域である。東日本大震災では，小本，中野，小成地区を中心に津波の被害を受けた。しかし，震災後5年が経過し，昨年には岩泉小本駅の新駅舎が小本地区防災センターと併設の形で完成するとともに，被害を受けた地区の住宅整備も進み，復興の兆しが見え始めていた。

### 2　東日本大震災による被災から新校舎へ

東日本大震災で，小本小学校と小本中学校は津波による被害を受けた。そのため、平成23年4月から岩泉小学校，岩泉中学校を間借りし，平成24年1月からは高台の大牛内地区にある小本小学校大牛内分校敷地内で，仮設校舎による生活を始めた。

そして，被災校舎より1キロほど内陸寄りの中野地区に小中同一新校舎が完成し，平成28年4月より新たなスタートを切った。



### 3　新校舎における課題

新校舎は，被災校舎に比べ内陸寄りに立地し，4階建てではあるものの，津波が校地まで来る可能性があること，学校のすぐ前を小本川が流れていること，交通量の多い道路や歩道のない道路を通学路として通学する児童生徒がいること等の面から，防災管理や防災教育を進めることは必須の課題である。

## Ⅱ 「生き抜く力を育む防災教育」の必要性

『いわての復興教育』は，「復興・発展を支えるひとづくり」を目的としており，10年後・20年後の岩手の復興・発展を担う子どもを育成することが根底に据えられている。

このねらいに照らして考えた時，小本地域の児童生徒が，これからの復興・発展を支える人として成長していくためには，震災体験を乗り越えるとともに震災経験を活かし，これからの社会を「生き抜く力」を身に付けていくことが必要であると考える。

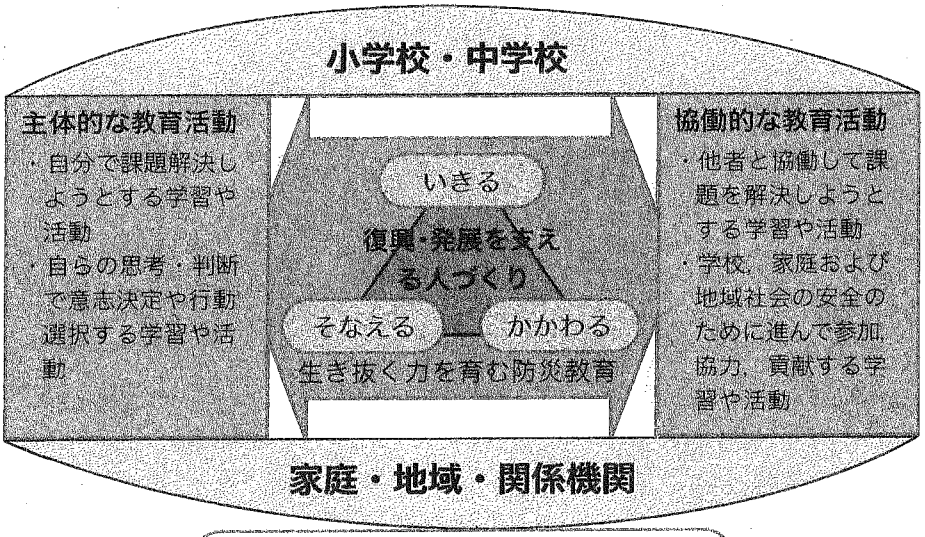
同時に，復興・発展を支え，「生き抜く力」を身に付けていくためには，地域の状況，学校の立地，児童生徒の生活基盤を考えたとき「防災教育」が重要となる。

そこで，「生き抜く力を育む防災教育」を進めるにあたって，以下の2点の学習活動を中心に小中連携しながら取り組んでいくこととした。

(1) 主体的な教育活動
- 自分で課題を解決しようとする学習や活動
- 自らの思考・判断で意志決定や行動選択する学習や活動

(2) 協働的な教育活動
- 他者と協働して課題を解決しようとする学習や活動
- 学校，家庭および地域社会の安全のために進んで参加，協力，貢献する学習や活動

上記教育活動を学校が中心になりながら，家庭・地域，そして関係機関とも連携しながら推進することが，復興教育の教育的価値である「生命や心について【いきる】」「人や地域について【かかわる】」「防災や安全について【そなえる】」を達成することにつながるととらえた。




生き抜く力を育む防災教育イメージ図

## Ⅲ 「防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）実践校」の指定

小本小学校と小本中学校は，平成28年度「いわての復興教育スクール」実践校の指定を受け，上記主体的・協働的な教育活動，および小中連携の取組として，以下の実践を展開しながら，「生き抜く力を育む」ことをめざした。

○復興副読本を効果的に活用した復興教育の開発・普及
- 教科や道徳，学級活動，総合的な学習の時間の学習において，学校や地域の実態等を考慮した「復興副読本」の効果的な活用の位置付け
- 「復興副読本」を活用した課題解決を図る学習活動

○小中連携を中心とした防災教育・訓練手法の開発・普及
- 小中連携による避難訓練
- 地域や関係機関と連携した防災活動
- 学校や家庭，地域の危険を認識・回避する防災学習

## Ⅳ－１　はじめに

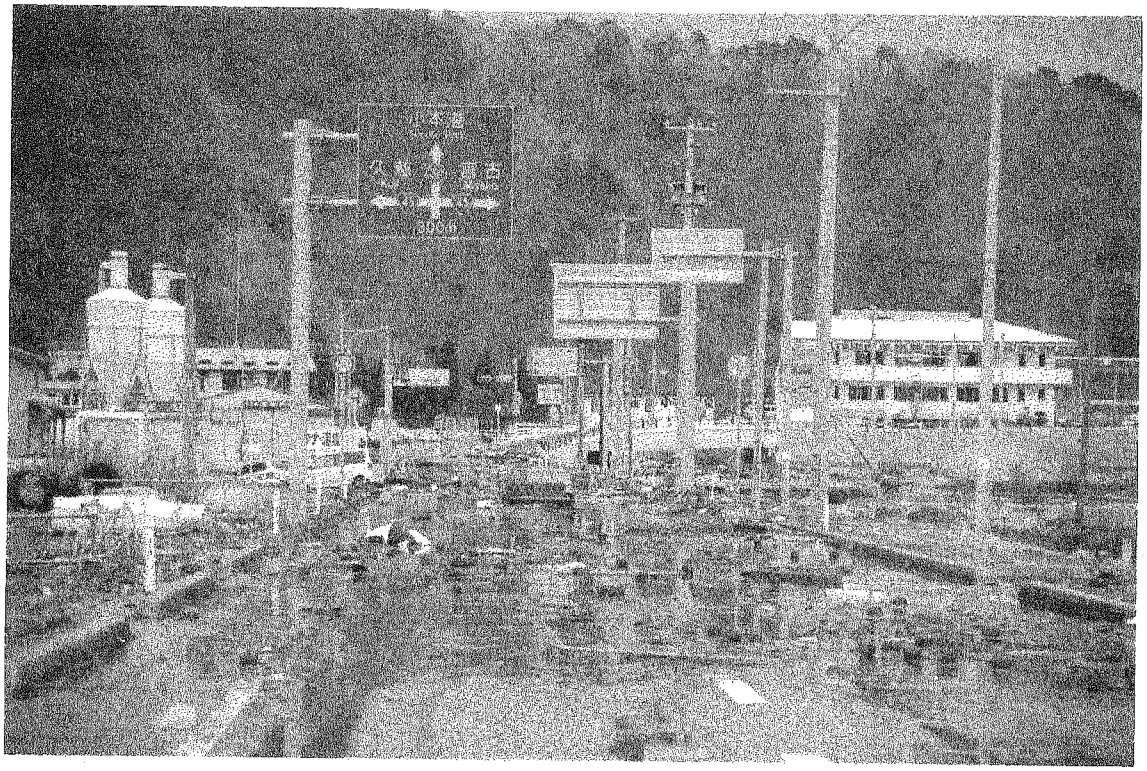
### （１）地域の環境や児童・保護者の生活環境のめまぐるしい変化に伴って

平成２３年３月１１日に東日本大震災によって本校校舎が被災し，加えて児童の自宅も被災してしまった。避難所を転々とした後の仮設住宅での生活は，当時の児童にとって快適とは言い難いものだった。

岩泉小学校の校舎を間借りしての学校生活が平成２３年４月からスタートし，その翌年１月から岩泉町小本大牛内分校に併設された仮設校舎での不自由な学校生活を余儀なくされていた。平成２８年３月には，小中同一の新校舎が海から離れた造成地に新設された。

新校舎の周囲では，新住宅地や三陸鉄道新駅舎件津波防災センターが整備され，三陸縦貫道路の工事も着々と進められている。復興が進むということは，従来の地域とは違った新たな地域が形づくられることでもある。同時に，児童や保護者の生活環境もめまぐるしく変化していくことでもある。

学区全体に目をやると範囲がとても広く海と山に囲まれているため津波と土砂災害についての児童へ向けた防災教育は喫緊の課題である。加えて，新住宅や新校舎の校庭近くには，２級河川である小本川がある。震災を経験した者にとって「いきる　かかわる　そなえる」意識をもつことは重要なものである。



津波直後の国道４５５線の様子。ここからわずか数百メートル先に新設の校舎がある。

### （２）児童の実態について

東日本大震災で被災した児童は全校児童数に対して，およそ３０％を占めている。被災はしていないが，人が流される様子を目撃した児童もいる。

震災当時は０歳の乳児から保育園の年長児までの幼児であったが，当時の記憶が鮮明に残っており，津波警報などを聞くと強い不安感を訴えたり，雑談の中で当時の記

憶を突然話し出したりする児童が多く見られ，それだけ児童の心に大きな影響を及ぼしたことがうかがえる。

また，年に一回行っている「こころとからだの健康観察」では，回を追うごとにストレス反応が強くなっている児童も見られる。

本校の児童は明るく，素直にやるべきことにも一生懸命取り組むことができる。しかし，自分の思いを言葉にして表現したり，地域の方に進んで挨拶をしたりするなどのコミュニケーション能力がやや弱い。加えて，大人の指示を聞いて行動することはできるが，自ら考え判断し，行動することは苦手な児童が多い。

震災から間もなく６年が過ぎようとしているが，児童たちの辛い記憶は，簡単に癒されるものではない。しかし，当時の記憶をマイナスのものとして薄れさせるのではなく，10年後・20年後に成長した児童たちが地域の防災の担い手となり，語り部となって災害に強いまちづくりをできる大人に育成する必要があると捉えた。

そこで，小本小学校では「岩手県復興副読本」を活用した，主体的・協働的な授業実践を行うこととした。

### （３）本校における復興副読本活用授業のねらい

２８年度復興教育モデルスクールの指定を受け，復興副読本を活用した授業づくりで目指すねらいを以下の３点とした。

ア　地域で起こりやすい災害や過去の災害について理解し，安全な行動をとるための判断に活かすことができる。被害を軽減したり，災害後に役だったりするものについて理解する。（知識，思考・判断）

イ　災害時における危険を理解すると共に，日頃の行動や訓練等を活かして自他の生命を守り，安全を確保することができる。（危険予測，主体的な行動）

ウ　自他の生命を尊重し，災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。（社会貢献，支援者の基盤）

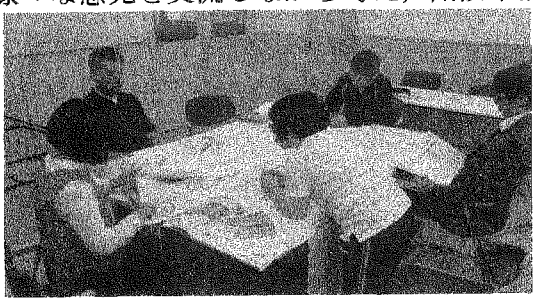
参考　文部科学省　学校における防災教育のねらい

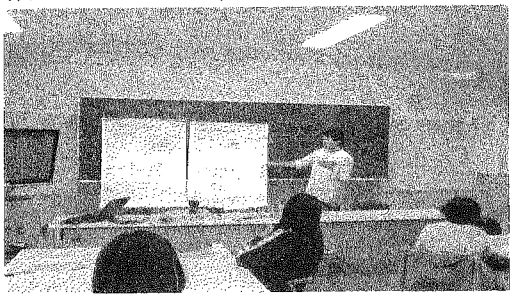
## Ⅳ－２　実践にあたって

### （１）職員による復興副読本を活用した授業づくり研修会

復興副読本はこれまでも活用してきたが，主体的・協働的な学習をさらに目指すために，職員による復興副読本を活用した授業づくり研修会を行った。副読本を教材として４５分間活用して授業を行う場合もあれば，授業者のねらいに応じて副読本の一部をいくつかの資料の一つとして活用する場合もあることなどを確認した。

児童の防災・復興に関する知識を具体的な行動につなげるための副読本を活用した授業づくりをグループごとにワークショップ形式で行った。単元または授業のどの場面において，どのような力をつけるために，どのページの何が活用できるかを様々な意見を交流しながら考え，副読本活用についての理解を深めた。





## （２）授業実践の計画・実践・成果と課題および改善点の把握

今年度は，副読本を活用した授業の年間計画を作成し，計画に基づいて授業を実践してきた。各学年で成果と課題および改善点を記録し，今後も有効的・継続的に活用できることをねらいとしている。

※月に１度，副読本を活用した成果と課題，改善点を記録している。

総合の「小本のよさを見つけよう」と社会の「まちたんけん」の学習で関連させて活用したが，40～41は3年生にはやや難しかった。写真を活用し，津波に備えたまちとして小本も復興しているというとらえに扱った。P24～25は，道徳の「教師の説話」で活用した。道徳と関連させて活用するのは有効だが，「わたしたちの道徳」の活用も検討しなければならない。（3年生）

（岩泉町立小本小学校　復興副読本年間活用計画）

低学年

| 月 | 防災教育目標 | 防災教育関連行事 | 1年 教科 | 1年 道徳 | 1年 特活 | 2年 教科 | 2年 道徳 | 2年 特活 | 3年 教科 | 3年 道徳 | 3年 特活 | 3年 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ア　地域で起こりやすい災害や過去の災害について理解し，安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 | 交通安全教室<br>避難訓練 | P59「ショートくん体操をやってみよう」避難訓練の後に，実施した。机の下に素早くかくれる訓練。1階ホールでは，身を守るのにどこが安全か考えさせ，その場所にダンゴムシのポーズを取ることを実際に練習した。副読本を読ませるより，中の資料を使い考えさせた方がいいと思った。 | | | | | [illegible] | P31～35 岡山の○小学校からの支援物資をいただいたことをきっかけに進めることができた。子どもたちに支援してくださることのありがたさを実感させ，自分たちができることで感謝を伝えようという意欲をもたせることにつながった。（かかわる）意識の向上が見られた。改善点…海外の話題であるので資料を理解するのに[illegible]やや難しかったようだ。活用はここで良い。（特別活動） | | | |
| 5 | イ災害時における危険を理解すると共に日頃の行動や訓練等を活かして自他の生命を守り，安全を確保することができる。 | 運動会 | | | | | | [illegible] | [illegible]たイトヨ　5月末に海づくり少年団の入団式の事前指導に活用した。[illegible]を大切にすることを理解させるために活用することができた。全員に広める[illegible]月，3月の鮭の放流の事前に活用できるかもしれない。 | | | |
| 6 | ウ自他の生命を尊重し，災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。 | | P34「こんどは自分たちが」を学級活動で行った。セルビアの人たちが日本の国旗を掲げて日本のみんなを元気付けていることに気づき，「うれしい」「こころがふわんとする」「しあわせ」「にほんからもなにかやりたい」「セルビアの人たちが困ったら，何かしたい」という考えが出された。<br>P55「みんなで防災力を高めよう」を学級活動で行った。地震があったとき，あぶないと思われるものを発表させた。電灯，棚の中身，絵画，本，鏡をかける器具，ガラス，ドア，コップ入れ，テレビ，時計，ラジオ，棚が出された。ぐらっときたら，どういう姿勢をとればよいか図表を拡大し黒板に貼り，実際に練習させた。揺れが収まった後，火を消すことや海のそばにいたときは，すぐに高いところ（避難場所など）に逃げることを学習した。 | | | P34「今度は自分たちが」を学級活動で行った。震災の時のセルビアの人たちの励ましに対する喜びや感謝の思いをもつことができた。修学旅行の物産販売で得たお金を日本の人たちに贈ったことも取り上げ，助け合うことの大切さを考えさせた。 | P56「みんなで，ぼうさい力を高めよう」を学級活動で行った。副読本の「教室の危険度チェック」を参考に，自分たちの教室の危険なところを見つけあった。「ぐらっときたらどうする」では実際に机にもぐったりダンゴムシポーズを取ったりしながら自分の身を守る練習をした。「家の周囲に隠れる場所がない」「祖母の部屋のタンスが倒れたら押しつぶされる」など，近隣の危険度チェックまでしていた。具体的な活動内容が示されていて，分かりやすかった。9月の地震の避難訓練に合わせて行えば発展的である。 | | [illegible]よさを見つけよう」と社会の「まちたんけん」の学習で関連させて[illegible]が，40～41は3年生にはやや難しかった。写真を活用し，津波に[illegible]たまちとして小本も復興しているというとらえに使った。P24～25では，道徳の学習の「教師の説話」で活用した。道徳と関連させて活用するのは有効だが，「わたしたちの道徳」の活用も視野に入れていかなければならない。 | | | |
| 7・8 | ア被害を軽減したり災害後に役立ったりするものについて理解することができる。<br>ウ自他の生命を尊重し，災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。 | 防犯教室<br>クリーン作戦 | [illegible] | | | 生活科の町探検の前に，P26～29「かえってきた」「いらっしゃいませ」を扱った。小本も同じような状況だったことから，小本の町の様子を調べる効果的な導入となった。ただ，資料の店の人たちの復興への思いを十分につかませるのであれば，道徳の中でじっくりと扱った方がよい。<br>[illegible] | | | 「小本の自まんを調べよう」の学習の中で，自分たちの郷土にほこりをもってまちを元気にしようとしている人たちがいることに触れた。小本のまちの自まんになることを見つける際の手がかりをみつけることができた。 | | | |
| 9 | イ災害時における危険を理解すると共に日頃の行動や訓練等を活かして自他の生命を守り，安全を確保することができる。 | 避難訓練 | | | | 生活科の「[illegible]」に合わせてP42「[illegible]」について取り扱う予定だったが，台風の被害もあり，実施ができなかった。3学期に実施したい。 | | | 道徳科の年間計画に「思いやり」を扱う「新幹線で」の価値のさらなる深化のために「論語に親しもう」を活用した。日常生活や災害時における自分なりにできる「思いやり」の行動について考えるために有効だった。資料などは自分で用意する必要がある。 | | | |
| 10 | ウ自他の生命を尊重し，災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。 | 校内ロードレース大会<br>学習発表会 | | | | | 避難訓練に合わせて，道徳で，P36「四つの教え」を扱った。本文を読むことが中心の短時間での扱いだったので，四つについて，考えさせる展開にすべきだった。[illegible] | | | | | |
| 11 | | 七頭舞・七ツ舞発表会<br>ステージ発表会 | P18～19「友だちや家族と遊ぼう」を学級活動で行った。日頃行っている遊びについて話し合い，P18～19を見て，どんな遊びがあるかな介文を読んで聞かせ，どんな遊びか想像させた。教師の用意した写真を見せると，風船バレーがやりたいと声が出た。そこで，遊びのルールを考えさせ，その後，ホールを使って実際に遊んだ。遊びの中で，なかなか風船が回ってこない児童に気付き，[illegible]「みんなで風船が落ちないようにして遊びたかった。」という感想が出された。 | | | | 道徳の「勤労」「助け合い」「思いやり」などの価値に，合わせて，P24の「協力し合うって，楽しい」を扱えると思った。自分にもできることがあるのではないかという実践意欲がわく内容であると思う。 | | 参観日で「家族で地震にそなえましょう。」を扱う予定であったが，直前に津波警報があり，児童のトラウマ反応を配慮して行わなかった。児童や保護者の心境も配慮しなければならない内容だった。避難訓練の事前指導でも扱えそうだと感じた。 | | | |
| 12・1 | ウ自他の生命を尊重し，災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。 | | 生活科の学習と関連させて，P6～7の「家族のみんなによろこんでもらったよ！」が実施可能である。生活科では自分でできることを考えて実行したが，この学習を行うならば，家族のためにがんばっている方へ感謝の手紙を書くこともでき，家族の絆を深めることにもつながると思う。 | | | | | | 総合的な学習の「防災士になろう」の学習と関連させて，「まけないぞうがつなぐきずな」を活用した。ゲストティーチャーの工藤洋子さんのお話と副読本の内容がとても関連するものであったので，活用しやすい内容だった。総合的の年計に加えると学習にふくらみがもてる。この計画で有効だった。<br>理科の「明かりをつけよう」の最後に，52pの「かみなり」についても簡単に触れ，金属が電気を通すことの理解を深めることができた。 | | | |
| 2 | ウ自他の生命を尊重し，災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。 | 6年生を送る会 | | | | | | | | | | |
| 3 | ア地域で起こりやすい災害や過去の災害について理解し，安全な行動をとるための判断に活かすことができる。<br>イ災害発生時における危険を認識すると共に，日頃の行動や訓練等を活かして，自他の生命を守り安全を確保することができる。 | 避難訓練<br>卒業式 | | | | | | | | | | |

道徳の「勤労」「助け合い」「思いやり」などの価値に合わせて，P24の「協力し合うって，楽しい」を扱えると思った。自分にもできることがあるのではないかという実践意欲がわく内容として有効である。
（2年生）

生活科の学習と関連させて，P6～7の「家族のみんなによろこんでもらったよ！」が実施可能である。生活科では自分でできることを考えて実行したが，この学習を行うならば，家族のためにがんばっている方へ感謝の手紙を書くこともでき，家族の絆を深めることにもつながると思う。（1年生）

P34～35「未来のために　五つの提言」を総合と関連させて活用できる。過去の災害の教訓は人々が語り継いできたことを理解させるとともに，小本地区にある海嘯記念碑に書かれている教訓は現代に通じる教えであることを実感させるために有効。６月に扱ったほうがよい。（5年生）

（岩泉町立小本小学校　副読本年間活用計画）

高学年

| 月 | ねらい | 防災教育関連行事 | 4年 教科 | 4年 道徳 | 4年 特活 | 4年 総合 | 5年 教科 | 5年 道徳 | 5年 特活 | 5年 総合 | 6年 教科 | 6年 道徳 | 6年 特活 | 6年 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ア 地域で起こりやすい災害や過去の災害について原因し、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 | 交通安全教室<br>避難訓練 | P56（主目の避難訓練の事後指導で「2つの判断と行動」でもっとかたろこうよう」を実施した。これまでの避難訓練の事前指導でも話題していた内容が扱ってはいたが，副読本を活用して指導することによってより根拠性が増し，生徒は自分の避難の仕方を強めに語り話ることができた。また，「考えてみよう・やってみよう」の活動実際に考えたりやってみたりしたことで，実際に地震が起こった時にどのように行動すれば良いか考えることもできた。 | | | | | | | | | | | |
| 5 | イ災害時における適切な情報収集する。また地域の特徴や防災機能を知るとともに自他の生命を守り，資金を確保することができる。 | 避難会 | 資料「天気と気温」では、この資料は、何天に役立ち考えなかった。2学期の情報収集する方が地元の「水のすがた」と関わりだと考え、副読本ゆくえ（P51）と合わせて話題した。 | | 「防災力を高めよう」ショート避難のすすめ」は、地域を想定した避難訓練に役立方が効果的だと考えた。8月の避難訓練で使った方がよいと思う。 | | | 多様な情報収集方法を教えるショート避難のすすめ」を導入、避難訓練の意識を高めるとともに、より危機を想定した防災訓練を考える。状況の変化から、必要な情報に変化を加味を図り加え、より安全確保に役立てるための方法を考え、今後に活用できる。 | | | | | | |
| 6 | ウ自他の生命を尊重し、災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。 | | 「ゆ・ま・ゆ・ゆ」活動を通の防ぐ「津波のしくみと被害」を活用して活用する。この学習を通して，情報収集をする材料が副読本にもあることを知り，新聞作りに役立てることができる。 | | | 考え方を学ぶ。グループ活動をしてもらう。「地震を作ろう」の学習に使った。グループごとに新聞を作る際の材料として活用する。 | 「ゆ・ま・ゆ・ゆ」活動を通して、地震や火災に備えて自分の身を守るための防災リュックの中身を考える授業を行った。子どもたちにとってあまり馴染みがないものも多くあり、防災に関する知識を深めることができた。 | | | | | | | P56「ショート避難のすすめ」を活用し、災害などによって心に傷を受けた人たちに対して、みんなで一緒に行う「呼吸法ストレッチ体操」。「心のケア」を通して、ストレスや不安を解消することに役立つことを知り、実際の体験の方法を経験し、日々の生活でストレスや不安を感じたときに一人でも対処できる方法を学ぶ。 |
| 7・8 | ア地震や地震による災害に役立たせるものについて調べることができる。<br>ウ自他の生命を尊重し、災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。 | 防 | 「一度しめの資料」の用紙を使った用に，毎天の朝会でP24～25を活用した。毎天の内容が防災と関係に関わっている内容でもあったため，七夕朝会等い出会った子どもたちにとって，より身近に感じられる内容となり，安全の為かきについて深く考える資料となった。 | | | | 朝読本を活用して，地震や火災に備えて自分の身を守るための防災リュックの中身を考える授業を行った。子どもたちにとってあまり馴染みがないものも多くあり、防災に関する知識を深めることができた。子どもたちからは「地震などが大切だと分かった」や「避難訓練や避難したときの持ち物を用意しておきたい」という感想が多くあり、今後も継続学習などに使える朝読本を活用した防災教育の充実を図っていく。 | | | | | | | |
| 9 | イ災害時における[illegible]共に自己の行動[illegible]して自他の生命を守[illegible]役立つことができる。 | 避難訓練　陸上記録会 | 実施訓練の事前指導でも話題した。1度目よりもさらに減災にダンゴムシのポーズをとったり，机の下に潜ませ対する説が見られた。 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | P58, 59, 60の「そのとき，どうする？」を扱い，宿泊学習の事前指導を行った。副読本を活用し，予想される危険として「地震」「地盤」「揺れ」「火」を例に出し，そのときどのように行動したらよいかを話べて，話し合い，考えさせることができた。宿泊学習や日々の生活において，あらゆる自然災害を想定して主体的に判断し，自他の命を守ったり，危機を予知したりして安全に行動できる感覚を高めることができた。 | | | | | | | |

P4～5・48～49「三陸鉄道の戦い」と「津波のしくみと被害」を国語科の「新聞を作ろう」の関連学習として総合で扱った。グループごとに新聞を作る際の事の材料として活用するには効果的。この学習を通して，情報収集をする材料が副読本にもあることを知り，新聞作りに役立てることができた。（4年生）

P46「地震のしくみと被害」の中の「岩手宮城内陸地震による地滑り」を活用し，支援をいただいた栗原市立栗駒小学校へのお礼の手紙を書いた。津波で被害を受けた小本も大変だが，内陸でも別な地震で被害を受けているところがあることを知った。小本小と同じように支援を受けて立ち直ってきたことを知り，自分たちにできることはないか考えさせた。（6年生）

## Ⅳ－３　復興副読本の活用及び実践例

### （１）特別支援学級における視覚教材としての活用実践例

※肢体不自由児学級での実践例　**（そなえる）**本時の流れ

「じしんがおこったときにどうするか　れんしゅうしよう」

① 突然ぐらぐらする時がある。これを地震であることを話す。

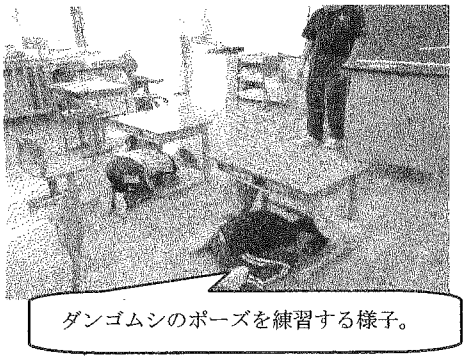
② 地震が来ても心配しなくても良い気持ちを高める。大丈夫なことを伝える。

③ 地震が来た時は机の下に隠れることを話し,自分の机の下に隠れる練習する。（ダンゴムシのポーズ）**低学年用副読本ｐ５６～５７**

④ 自分の机の下だけでなく近くの机に隠れることを練習する。

本校には，３つの特別支援学級がある。児童の特性や発達課題に合わせて主に副読本の写真や絵を視覚教材にして避難訓練の事前指導に活用した。

視覚的な情報が理解しやすいため，「ダンゴムシのポーズ」の絵を活用した指導は有効だった。小さな揺れを感じると自分から素早く行動するようになったり，「ダンムシのポーズ」は命を守るためのポーズであると理解させたりすることができた。

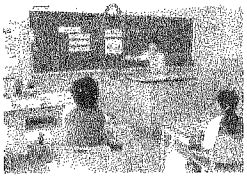


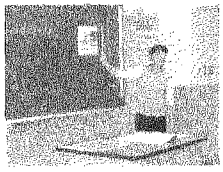
ダンゴムシのポーズを練習する様子。

教卓の下にもぐって練習する様子。

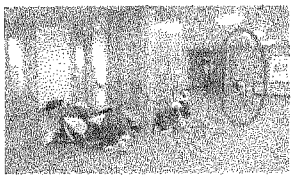
### （２）避難訓練の事前・事後指導での活用及び実践例

小中合同避難訓練の事前・事後指導の際に，副読本の写真や絵を活用して，事前・事後指導に活用した。児童が避難訓練に集中して参加することや，全校で共通理解をした上で避難できるようになることをねらった。また，避難訓練の様子や児童生徒のふり返りも副読本の絵や言葉などを掲示して避難訓練への意識を継続的に高めていくことができた。児童のふり返りの感想から，避難訓練に対して良い緊張感をもって参加していることがうかがえる。児童自身が自分の気づきを訓練や生活に活かそうとする様子も見られた。



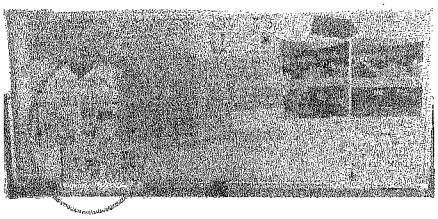


高学年用副読本ｐ５５と低学年ｐ５７の挿絵を活用して事前指導をしている。



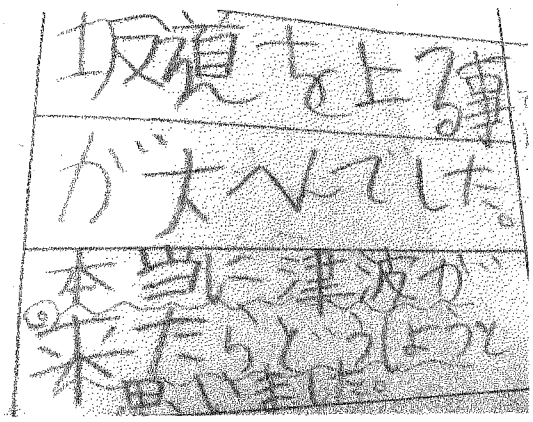
「３つのない」を学習したので，自分で判断して安全なところを探して「ダンゴムシのポーズ」をしている様子。

資料で学習した後，校舎内で実際に「ダンゴムシのポーズ」をする様子。

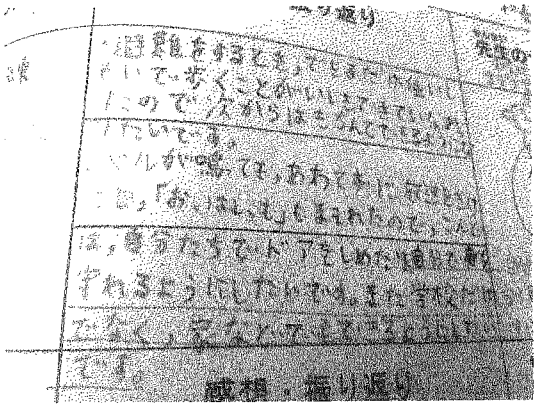


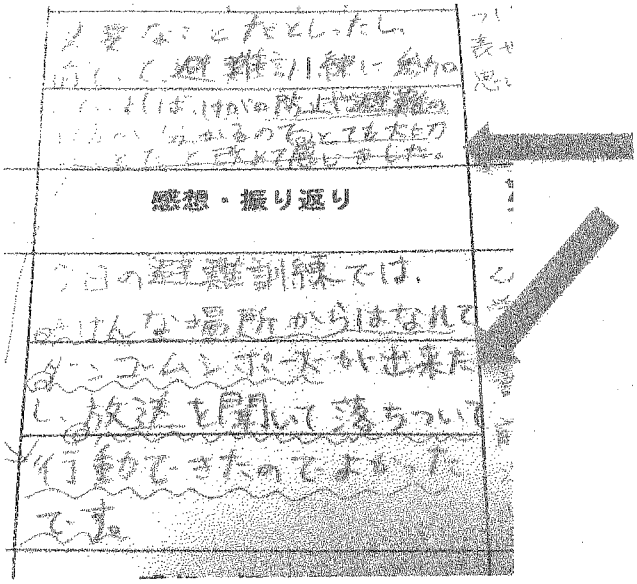
避難訓練の振り返りの交流も兼ねて，児童・生徒の感想を各学年ごとに掲示している。生徒の感想の中に，「災害に事前はないので，いつ災害があっても冷静に対処したい」という感想をうけて，副読本の「そのとき，どうする？」のページを掲示し，日頃から児童・生徒に「そなえる」意識をもたせるよう働きかけた。※小中同一校舎により，避難訓練は全て合同で行っている。

４年生　女児の感想




５年生　女児の感想




６年生　女児の感想

前回の避難訓練で訓練の必要性を実感したことが，次の訓練での「放送を聞いて落ち着いた行動」につながっている。

## （３）地域と連携を図った活用及び実践例

### ア　６年生の実践例　総合的な学習（かかわる）単元の流れ

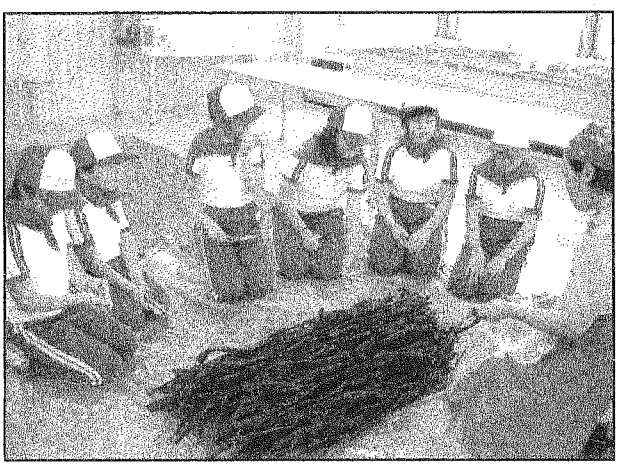
①**Ｐ３８～３９「高校生が地域に関わる」**を，修学旅行での特産品販売活動の事

前学習の際に使用した。宮古水産高校の生徒達たちが地元の特産品を生かして水産業の発展に貢献したことを学んだ。

②道の駅や小本駅の売店を見学し，どのような特産品があるのかを調べた際に，職員の方から「観光客が小本の海産物を買っていく」という話を聞いたり，小本地区の方が小本産の昆布を出品しているのを見つけたりして，副読本の内容を思い出した児童自身が「小本の特産品として紹介しよう」と提案した。

③地域の方をゲストティーチャーに招き，子どもたちが実際に昆布を切り，袋詰めするところからやらせていただくことになった。実際に自分たちの手で作業をしながら，地域の方のお話を聞いたことで，岩泉・そして被災地小本の良さをＰＲしたいという気持ちを高めることができた。

小本小学校では，震災以降６年生の修学旅行での「特産品販売活動」でたくさんの支援への感謝の気持ちや岩泉の良さをＰＲする活動を行ってきた。今までの支援に対する感謝の気持ちを特産品販売活動を通して伝えたいという思いは持っていても，それをどのように形にしたらいいのか，具体的に分からなかった。しかし，副読本の「あなたが地域に貢献するとしたら，どんなことを行いますか。」の問いかけの答えを考えることで，自分たちができる地域貢献について主体的に考えることができた。当日の特産品販売活動では，「自分たちができることは笑顔で元気よく接客すること」「おいしく食べる料理の仕方などを分かりやすく見やすいポップにしよう」などと考え，活動することができた。



**イ　３年生の実践例　総合的な学習（かかわる）単元の流れ**

①小本で捕れる鮭の生態について調べた際に，採卵した鮭の身はほとんどが活用されないことを調べた。その後，地域に採卵した後の鮭の身を活用して地域の名物「鮭ん坊」を開発している方がいることを知らせた。

② **ｐ２６～２７『「まけないぞう」がつなぐきずな』**を出前授業の前に学習し，小本地区にも災害に負けずに地域の名物を作ったり被災地の人々の頑張りを伝えたりして貢献している方について考えさせた。

③「鮭ん坊」作りの出前授業をしていただく際に，小本の鮭を他の地域の方達に知ってほしい，被災地のためにできることをしたいなどという地域貢献の思いをお話していただいた。

３年生の総合的な学習では毎年，鮭の生態を調べたり受精卵を譲っていただき，それらを孵化させて放流させる活動を行っている。これまで，鮭の生態や受精卵の飼育を学習しても，子とも達の深い理解にはつなげることができなかった。

実際に地域の方にお話を聞いて，副読本と重なる内容を聞いた子どもたちは「自分たちの地域にこんなにがんばっている人がいるのはすごい」「小本の鮭のことがもっと好きになった」と実感を伴った理解につなげることができた。

いわて国体の開会式で神戸の方から，「岩泉がんばれ」と励ましの言葉をかけていただいたことや，お花を届けていただいたことなどを話していただいた。「勉強したことと同じだ」「自分たちが生まれる前に地震で被災した地域があったんだ」とつぶやく児童がいた。

## （４）児童の実態と授業者の意図に応じた活用及び実践例

### ア　１年生の実践例　学級活動　「津波から逃げるために」

**㉑　身を守り，生き抜くための技法**

平成２８年度　いわて復興教育研修会　提案授業より

単元の指導計画

① 小本のまち探検で被災校舎や近くの非常階段，防災センターなどを見学する。

② 津波に関するアンケート調査をする。

**③ 津波の際の適切な避難の仕方を知る。（本時）（そなえる）**

**（低学年用副読本　ｐ３８～３９「防潮堤を見て学ぶ」）**

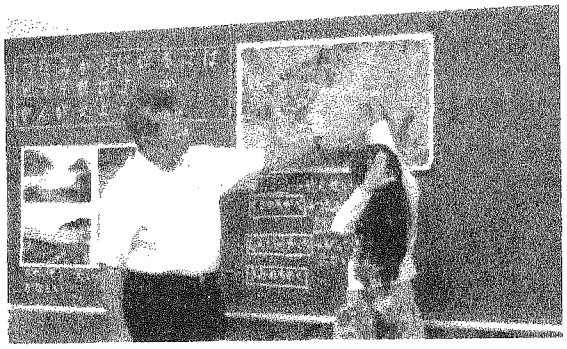
④ 前時を活かして，津波が想定される地震避難訓練に参加する。

東日本大震災当時０～１歳だった１年生の児童たち。震災当時の記憶が明確ではない児童たちに自分の身を守るための行動について主体的・協働的に考えさせるための手立てとして，副読本低学年用副読本ｐ３８～３９の「防潮堤を見て学ぶ」のページを活用して学級活動「津波から逃げるために」を実践した。

本来は「かかわる」の内容であるが，沿岸部に住んでいる児童に津波から身を守る行動について恐ろしさや危機感をもたせながら考えさせるために有効であると授業者が意図して「そなえる」内容として扱った。

副読本に書かれている一文「安全になるまで，戻ってはいけない。」のを授業の終末に読み聞かせ，過去の教訓を守る大切さをより深く実感させることができた。

視覚に訴え，集中力を持続させるために気象庁発行のＤＶＤ教材や，学区の地図なども活用した。怖さを伝えるだけではなく，「クイズ」も取り入れ，考える楽しさも意識した実践となった。



ＤＶＤやクイズ，まち探検で得た知識や土地勘をもとに，実際に学区内で津波が起こった際には，「防災センターに逃げる。高くて丈夫だから」「避難したところが危ないと思ったら，もっと高い山に逃げる」など，児童が自分のこととして真剣に考え，意見を交流することができた。

## イ　６年生の実践例　保健　「呼吸法で心のケア」⑥「心の健康」

平成２８年度　いわて復興教育研修会　提案授業より

単元の指導計画

① ５年保健「心の健康」で不安や悩みは誰もが経験し，そうした場合には自分にあった色々な方法で対処できることを学ぶ。

**② 副読本を用いて，「呼吸法で心のケア」を学習することで，不安や悩みをもった時には，自分なりの方法で対処できると良いこと確認し，その中の一つに「呼吸筋ストレッチ体操“ラッタッタ呼吸体操”」があることも知る。（本時）（いきる）**
**（高学年用副読本　ｐ１８～１９　「呼吸法で心のケア」）**

③ 友達や家族の悩みについても，児童自身が得た知識を活用して，適切に関わっていく。

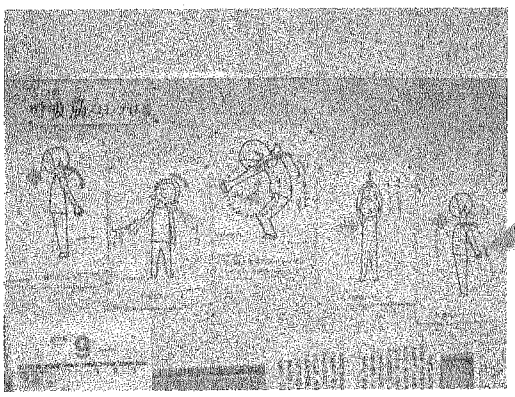
６名中，４名が被災している６年生。日常生活では一見落ち着いているように見てえるが，心とからだの健康観察で要サポートとなったり，ふとしたきっかけでテンションがとても高くなったりする児童が多い。

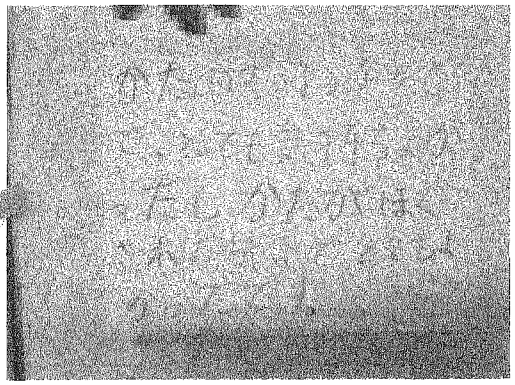
本来は，５年生の保健「心の健康」と深く関わる内容であるが，児童の実態を考慮し，日々の生活でストレスや不安を感じた時に，すぐできる対処法を学び自分自身で心の健康を維持してたくましく「生きる」児童に育てたいという担任の意図で授業を実践した。（高学年用副読本ｐ１８～１９　「呼吸法で心のケア」を活用）

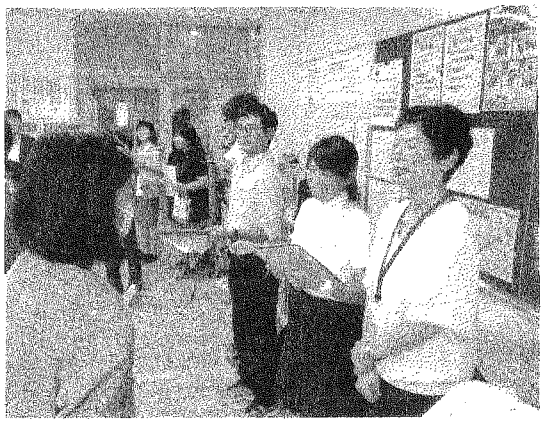
この授業後も，毎朝「ラッタッタ体操」を続けており，不安があっても以前よりも落ち着いて自分で対処できるなど良い変化が見られている。

実際にＤＶＤを見ながら，「ラッタッタ体操」を体験している様子。

参観者に囲まれ，緊張していたようだが体操をしたことで，緊張がほぐれ表情も柔らかくなっていった。







授業を参観していた他校の先生方にも体操の感想をうかがい，他者も自分と同じであることを実感させ，家族や友達ともやってみようとする意欲付けを図った。

体操をしてみての感想を話し合った。「緊張していたのが，ほぐれた」「ゆったりとした気持ちになった」「気持ちよかった」などの感想を交流しあった。

## （５）道徳との関連を図った実践例

**３年生の実践例　道徳　B－(６)相手のことを思いやり親切にすること**

**「論語に親しもう」⑪ボランティア**

平成２８年度　いわて復興教育研修会　提案授業より

単元の指導計画

① 音読や朝の会等で「論語」を音読し，昔の教えは今の私たちと共通することがあることを知る。

② 総合的な学習「小本の良いところを伝えよう」で低学年用副読本ｐ４２～４３を読み，小本地区と同じように災害から復興し，「津波に強いまちづくり」をしている奥尻島のことを知り，自分たちのまちをどんなまちにしたいか考え，発信する。

③ 道徳副読本「新幹線で」を読み，他者に思いやりをもち親切にする大切さを学ぶ。

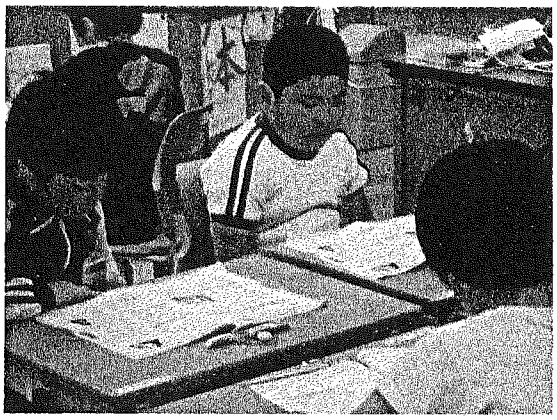
**④ 『「論語」に親しもう』を読んで，日常生活や災害時における「恕」や「仁」の行動について考える。（本時）（低学年用副読本ｐ４２～４３「論語に親しもう」）**

３年生では，「道徳B－（６）相手のことを思いやり，進んで親切にすること」の価値を学ばせ，日常生活や災害時に活かすことで，地域社会の一員として他者と助けあって生活しようとする心情を育てることをねらい，道徳の副読本として低学年用副読本ｐ４２～４３「論語に親しもう」を活用した。

小本地区の震災当時の写真をもとに，災害時での「恕」や「仁」（思いやりや優しさなど）の行動について見つける活動を行い，その根拠を３年生なりに当時の体験や記憶を活かして協働的に学び合った。

人は誰でも弱さをもっているが，災害時において「恕」や「仁」の行動ができるために，日頃から「そなえて」「困ったときは誰とでも分け合う」「譲る」「人が嫌がることをする」「周りのことを考えて静かにする」など自分ができる「恕」や「仁」の行動を主体的に考えさせることができた。

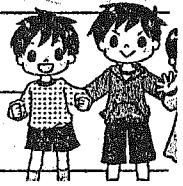
震災当時の写真を見ながら，グループで「恕」や「仁」の行動を探し，その根拠を話しあっている様子。どの子も，自分の経験や考えをもとに話しあっていた。



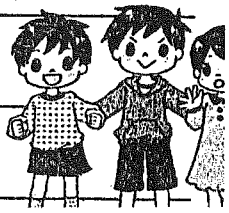
授業の終末に，児童たちが進んで副読本に書かれている「論語の力」という言葉を探して音読している様子。児童の感想に，「恕や仁は，論語を知らない人にもあるんだなあと思いました。」という言葉があった。

児童の感想より

恕や仁はろんごをしらないくにもあるんだなあと思いました。これからはいなん所とかでもしずかにしたり、ほかの人にめいわくがかからないようにしたいです。



言ったように自分からならんでボランティアすることはやっぱりいいことなんだなぁと思います。たいふうにあったときはなんでボランティアをできなかったんだろうと思います。

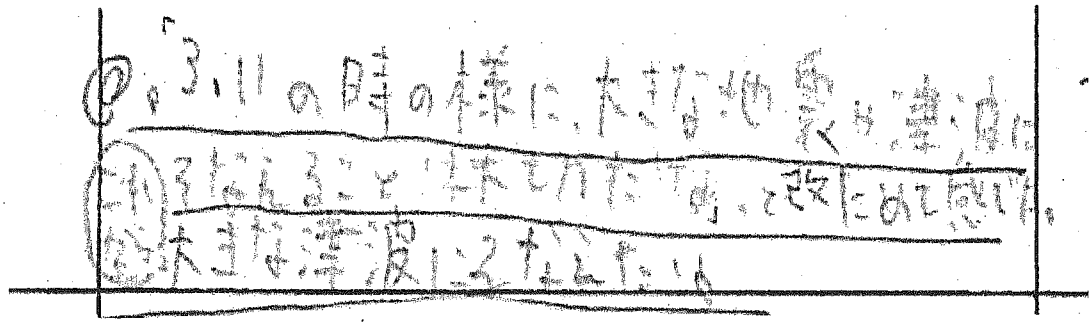


## Ⅳ－４　成果

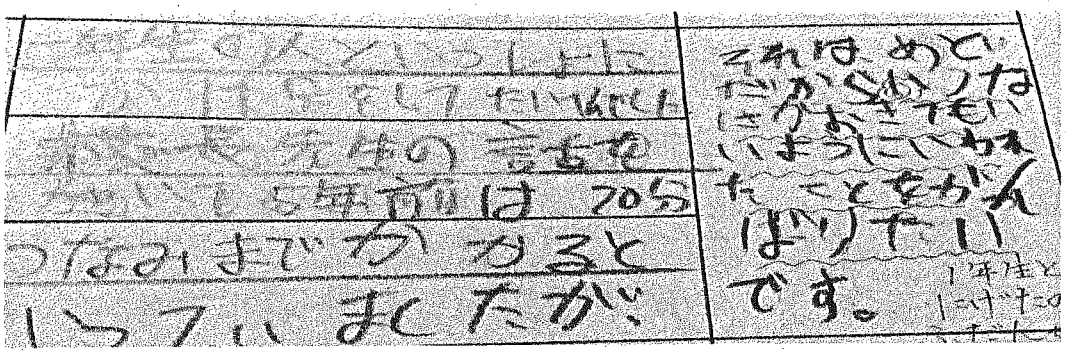
（１）児童の感想や避難行動の様子から

副読本を活用して事前指導を行ったり事後指導では感想を書かせたりして，自身の避難行動はどうであったか振り返らせている。児童の感想から，小本小学校防災教育の３つのねらいに近づいていることをうかがうことができる。

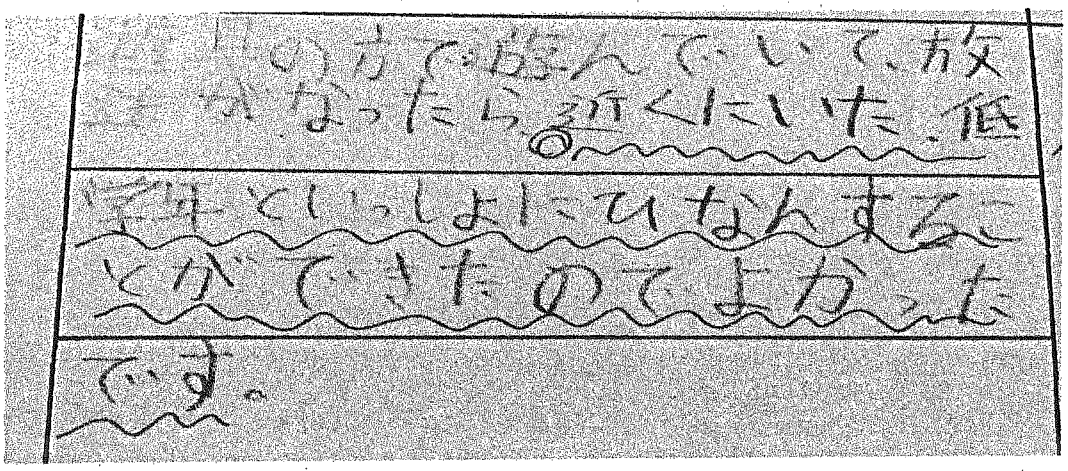
ねらいア（知識，思考・判断）に関わる感想　　５年生　女児

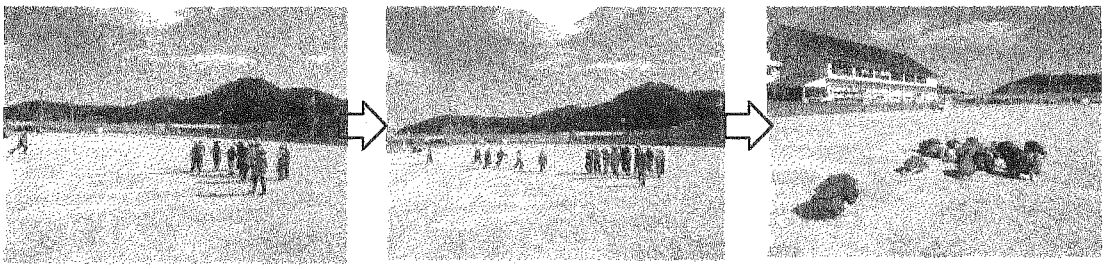



ねらいイ（危険予測，主体的な行動）に関わる感想　４年生　男児

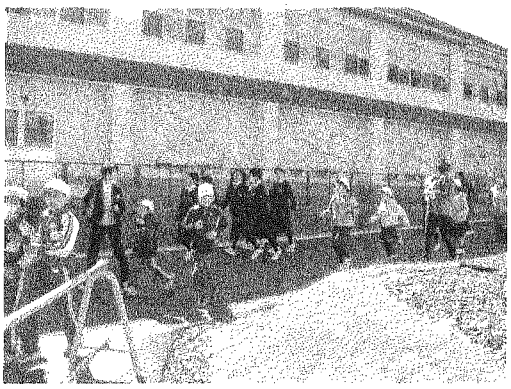


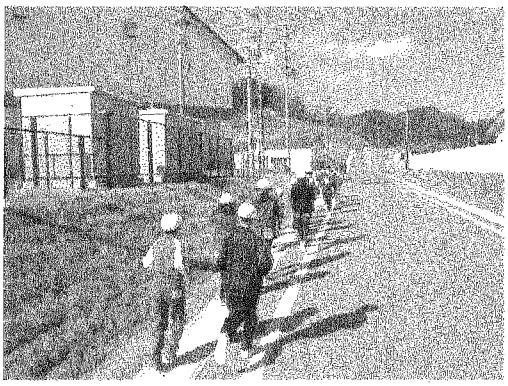

ねらいウ（社会貢献，支援者の基盤）に関わる感想　６年生　女児



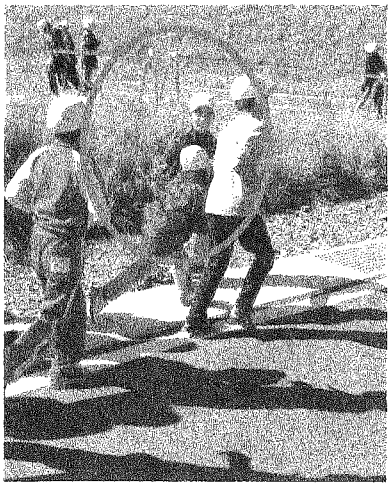


校舎付近で遊んでいた低学年に高学年が「建物から離れるんだよ」と声をかけて，一緒に「ダンゴムシポーズ」をしている。





１年生を高学年が囲んで避難している。「転ばないように」「一緒についてこられるように」気にかけ，「１年生がんばれ。大丈夫か。」と声をかけながら避難していた。



（２）副読本を活用して授業実践した児童の変容（授業者の立場からみて）

・命を守る教えについて考えることで，避難訓練に必然性をもたせて取り組ませることができるようになった。**（いきる）**

・東日本大震災以前の災害で被災した方たちも，前向きに生きていることを知らせ，人間の生きる力の強さを児童に理解させることができた。**（生きる）**

・低学年用副読本ｐ１８「友だちや家族と遊ぼう」を活用して，風船バレーを学級作りで行った。際に，風船が回ってこない友達に声をかけたり「みんなで遊んで楽しかった」と感想を話したりして。遊びの中で自然に良い人間関係つくりをすることができた。**（かかわる）**

・自分がいる場所やその場で起こった災害に応じて，自分の命を守るためにどんな行動をとれば良いか，児童・教師が具体的イメージし，判断するようになった。**（そなえる）**

・過去に起きた災害についても，具体的に知るきっかけになった。**（そなえる）**

**Ⅳ－５　課題**

・震災から６年が経とうとしているが，今だに心が落ち着かない児童がいたり，新たな災害が発生したりしている。児童への配慮を考えると活用できるページが限られてしまうため，スクールカウンセラー等と連携しＴＴで進める必要がある。

・各教科や特別活動等との関連性をもたせた副読本の活用計画が必要である。

・児童・教師が日常的に副読本に触れるための手立てを講じる必要がある。

岩泉町立小本小学校

# 復興教育全体計画

◇教育基本法
◇学校教育法
◇岩泉憲章

◇いわての復興教育

・震災津波を乗り越え、未来を創造していくために、10年後、20年後の岩手の復興・発展を担う子どもたちの育成

## 学校教育目標

「ふるさと小本を愛し、ふるさとの未来を担おする子ども」

◎進んで学ぶ子

◎心豊かな子

◎健康でたくましい子

◇児童の実態
・明るく素直
・親切　・進んで働く
・自分の思いや考えを表すことに消極的である。

◇保護者の願い
・健康な子
・明るく、思いやりある子
・意欲的に学習する子

◇教師の願い
・命の尊さを知り、生き生きと生活する。
・自ら考え、判断し、主体的に行動できる。
・困難を乗り越え、たくましくよりよく生きる力の育成

## 復興教育重点目標

◎自他の生命を尊重し、夢や希望をもって毎日を生き生きと生活しようとする心や態度を育てる。

◎地域社会に生きる一人として、公徳心をもち、役割や責任を自覚し、協力して生活する態度を育てる。

◎災害に備え、自他の命を守り、生き抜くための考えや技能を身に付ける。

◎は本校重点事項　<>は実施予定学年

| 生きる | | かかわる | | そなえる | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生命の大切さ・心のあり方・心身の健康 | | 人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画 | | 自然災害の理解・防災や安全 | |
| ① | ◎かけがえのない生命<全> | ⑧ | ◎家族のきずな<低> | ⑮ | 東日本大震災津波の様子と被害の状況 |
| ② | 自然との共存 | ⑨ | ◎仲間や地域の人々とのつながり<全> | ⑯ | 自然災害発生のメカニズム |
| ③ | 価値ある自分 | ⑩ | 県内外や海外とのつながり | ⑰ | 自然災害の歴史 |
| ④ | ◎夢や希望の大切さ<高> | ⑪ | ボランティア | ⑱ | 自然災害のライフラインへの影響 |
| ⑤ | ◎やり抜く強さ<低・中> | ⑫ | ◎自分と地域社会<中・高> | ⑲ | 災害時における情報の収集・活用・伝達 |
| ⑥ | 心の健康 | ⑬ | 地域づくり | ⑳ | ◎学校・家庭・地域での備え<全> |
| ⑦ | 体の健康 | ⑭ | 復旧・復興への歩み | ㉑ | ◎身を守り、生き抜くための技能<全> |

## 学年の目標

| 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|
| ○友達や身近な人々への関心を高め、仲良く行動することができる。<br>○目標をもって生活しようとする意欲をもつことができる。<br>○自分の考えをもち、行動することができる。 | ○友達のよいところを認め、励まし合うことができる。<br>○命の大切さについて考え、自分たちを支えてくれる人々に感謝する<br>○自分で考え、適切な判断・行動ができる。<br>○将来の夢や希望に向かって努力しようとする態度をもつことができる | ○命を尊重し、他者を思いやり適切な判断・行動ができる。<br>○他者と助け合い、困難に立ち向かい解決することができる。<br>○将来の夢や希望をもち、実現に向かって努力しようとする態度をもつことができる。<br>○状況に応じて、的確な判断のもとに、自らの安全を確保する行動ができる。 |

## 教科・領域等における復興教育の内容

| 各教科 | 道徳 | 特別活動 | | | 総合的な学習の時間 | その他の教育活動 | 防災教育 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学級活動 | 学校行事 | 児童会・クラブ | | | |
| ○基礎・基本の定着<br>○問題解決的な学びの習得<br>○友達の意見を聞き合い、学び合う態度の育成<br>○学ぶことへの関心や意欲を高め、活動しようとする力の育成 | ○協力し合い、助け合う態度<br>○自他共によりよく生きようとする心<br>○思いやりの心の育成<br>○目標に向かい主体的に努力する態度や希望をもって生きる心<br>○生命の大切さ<br>○郷土を愛する心<br>○人々への感謝<br>○家族の絆 | ○基本的な生活習慣の形成<br>○望ましい人間関係の育成<br>○希望や目標をもって学習や学校生活に取り組む態度<br>○学級や生活上の諸問題の実践的解決<br>○生活を支える役割の理解と責任の遂行 | ○集団生活を支える役割理解<br>○集団行動における望ましい態度<br>○意欲的な体験活動への参加<br>○よりよい学校生活を築こうとする態度 | ○集団生活を支える組織や役割の理解<br>○役割や責任を果たす意義と充実感<br>○異年齢間の交流<br>○自己の興味・関心の追求 | ○自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力<br>○主体的、創造的な探求活動<br>○自己のよりよい生き方を考える場<br>○自然体験、社会体験、見学等の体験的学習、問題解決的学習 | ○主体的なコミュニケーション<br>○多様なものの見方や考え方<br>○自分のふるさとの文化の大切さと豊かさに気づき、尊重する態度<br>○役割と責任を自覚し、活動に参加する<br>○自主性の育成 | ○地域で起こりやすい災害や過去の災害について理解し安全な行動をとるための判断に活かすことができる。被害を軽減したり,災害後に役立ったりするものについて理解する。<br>○災害時における危険を理解すると共に、日頃の行動や訓練等を活かして自他の生命を守り、安全を確保することができる。<br>○自他の生命を尊重し災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。<br>○各教科、道徳、特別活動、総合的な学習における復興副読本の活用 |

## 復興教育推進のための基盤

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学級経営の充実 | 基本的生活習慣の定着 | 教職員の共通理解と協働体制の確立 | PTA・地域・諸機関との連携・協働 | 地域の教育力を生かした行事の開催 | 小中学校の連携及び交流 |

## V-1 実践活動例

(1)以下の計画については別紙参照
　○小本中学校復興教育全体計画
　○小本中学校復興教育年間指導計画
　○小本中学校災害安全計画

(2)小中合同避難訓練
　・小学校と中学校が同一校舎となったため，避難訓練は通年を通して小中合同で実施することとした
　・年3回実施の計画…4月，9月，11月
　・4月は火災想定，9月は地震・津波想定，11月は登下校時想定訓練を計画

①第1回避難訓練(火災想定)

【第１回避難訓練指導計画より】

○ねらい
　・火災が発生した場合の新校舎での安全な避難の仕方が理解できる。
　・新校舎で火災が発生した場合に落ち着いて避難することができる。
　・安全な避難の仕方…「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」
　・児童・生徒を安全に避難誘導することができる。

○日時及び想定
　・平成２８年４月２６日（火）１０：１５～１１：００
　・授業中に火災発生（１階家庭科室から出火・予告あり）
　・避難場所(中学校バックネット前)に避難
　・天候により校庭に避難できない場合は，中学校体育館に変更する。その場合の出火場所も1階家庭科室とする。
　・通報訓練あり

○指導細案と役割分担（省略）

○事前指導と事後指導　～防災教育との関連～
　・避難の原則「おさない」「走らない」「しゃべらない」「もどらない」の確認。
　・避難経路の確認。
　・放送は２回繰り返される。２回目が終わるまで静かに聴くことを確認。
　・名札（緊急時の身元確認の為）、ハンカチ携帯の確認・紅白帽子をかぶる。
　・避難の際は、火災が広がるのを防ぐためにドアや窓の施錠と消灯を原則とする。
　・学級ごとに、めあての反省をする。感想の交流を行う。
　・避難場所の確認（ミドリ十字の旗を目印に避難すること）
　・煙が充満した室内での行動の仕方
　・防火扉や非常ベルは、児童生徒は触らないこと。
　・防火扉が閉まっていても、避難できること。（ただし、安全に留意して）
　・低学年を誘導することがあったら、自分にできそうなことは何か考えること。

第1回避難訓練の様子

〈生徒のふり返りより〉

・非常ベルが鳴って少し驚いたけれど，その後の行動をしっかりとやることができた
・避難経路に階段が多かったので，落ち着いて行動することが大切だと思った。
・防火扉の場所が分かったし，それと同時に経路も分かったので，自分の身をしっかりと守れるようにしたい。
・体育館を通って行くということが分かった。初めての新校舎での避難訓練で結構時間がかかった。
・今回は事前に聞いていたから冷静に対処できたけれど，災害に「事前」は無いので，そういうことがあっても冷静に対処できるようにしたい。
・前（仮設校舎）よりも避難経路が長くなって，本当に放送をちゃんと聞かないといけないと思った。

〈実践より明らかになったこと〉

新校舎での初めての避難訓練であり，小中ともに授業時間での訓練を実施した。

最大のねらいが「火災が発生した場合の新校舎での安全な避難の仕方を理解する」ことであり，事前指導を行い，教師が誘導する形での訓練であった。授業中の訓練で教師誘導による集団行動が主だったため，児童生徒が自らの判断で行動する場面は少なかった。

また，小中連携の訓練ではあったものの，小学生と中学生がかかわる場面はほとんどなく，自己評価「いきる・そなえる・かかわる」の「かかわる」ことを意識化できた生徒はほとんど見られなかった。

そのため，児童生徒が，自らの判断で意志決定したり行動したりする場面を設定する必要があることや児童生徒がどのように協働できるかが課題となった。

②地域連携防災訓練（登校時避難訓練想定）

新校舎の現在地への移転に伴い，関係機関や地域住民，保護者と連携した登下校時の避難訓練実施が必要であると考えた。

そこで，9月予定の登下校時想定避難訓練を，11月5日予定の小本地域を対象の岩泉町防災訓練に参加の形で検討を進めた。7月末に小中副校長が岩泉町役場小本支所（小本地域防災センター）にて支所長と協議。実施に向けて実行委員会を立ち上げ，関係機関（町，消防，地域等）と連携して細部を詰めていくことで確認。

しかし，8月30日の台風10号による被災で地域の防災訓練は中止。

③第2回避難訓練（大地震・大津波想定）

4月に実施した第1回目の避難訓練の反省および地域連携防災訓練が中止になったことを受け，児童生徒が，自ら判断し行動する場面を設定する必要があると考え，11月実施を計画。

さらに，大地震およびそれによる大津波が予想され，校地外へ避難する必要があると判断される場合，どこへ避難することが望ましいのかということを検証し，防災マニュアル作成の規準とするための避難訓練とも位置付けた。

また，指導する側も「ねらい」「指導の観点・評価」を共通理解し，発達段階に応じた事前指導や事後指導を展開することとした。

第2回避難訓練の様子

【第２回避難訓練指導計画より】

○ねらい

・地震および津波発生想定の場合の避難ができるようにする。
・校地外への避難方法を理解できるようにする。
・児童生徒個々で避難しなければならない場合の素早く的確な判断力・行動力を養う。
・児童生徒が在校時における地震・津波発生想定の避難訓練を行い，地震・津波発生時の危機管理マニュアルの策定を進める。

○指導の観点・評価

・地震発生および津波警報発令において自らの命を守り抜くために「指示を確実に聞く」「お・は・し・も」「的確な判断と素早い行動」をとることができる。【いきる】
・事前指導を通して地震発生時の対処，避難経路および避難方法を理解できる。【そなえる】
・避難途中および地区ごとの整列において弱者優先，他の児童生徒への声がけなど仲間や他の人と協働しようとする態度をもつことができる。【かかわる】

○日時および想定

・平成２８年１０月２７日（木）　地震発生予定10:38→　津波警報発令10:43
　※授業ではない時刻の発生を想定しての避難訓練とする
　※小学校の遊び時間に避難訓練を開始する
・東日本大震災同程度の地震・津波を想定

○指導細案と役割分担（省略）

○避難の仕方

地震発生（停電想定）→机の下等で安全姿勢を取る→１次避難（校舎北側高台のアライ臨時駐車場）→津波警報発令→児童生徒人員・怪我等確認→２次避難の判断

〈１次避難について〉

・地震の揺れが収まった後は外へ避難することが原則
・アライ駐車場までは個々に避難
・校地からアライ駐車場への避難誘導
・児童生徒人員確認および避難誘導の職員分担

〈２次避難について〉

・2次避難の必要性が出た場合については，今後の検討課題
　※高台（貯水場前広場）へは小学校低学年は登るのが難しい
　※アライ臨時駐車場より上の高台に避難できても，水か引くまでは身動きが取れない

〈生徒のふり返りより〉

・小学生で避難が遅い人がいたから，逃げるのを手伝ってあげようと思った。
・4月から約5か月たっていても「おさない・しゃべらない・もどらない」ができた。教室や校舎内では「はしらない」ができた。アライの駐車場までは少し遠かったけど，安全に避難できたのでよかったと思う。かかった時間は8分だったけど，みんなが安全に避難できたし，小学生を優先に避難できたのでよかった。
・逃げる時に話をしてしまったので，気をつけたい。また，逃げる時に小学生を優先して助け合いながら逃げることを生かしたいし，登校中だったら小さい子やお年寄も一緒に逃げるようにしたいと思った。
・地震が起こったときは，駐車場まで行くことが分かった。今回は少し話してしまったので気をつけたいし，実際に災害があったときは，自分にできる範囲のことをしたいと思った。
・津波を想定して避難した。経路を確認することができたが，坂をのぼる時に小学生の子をおいて先に逃げてしまったので，そこはしっかり気をつけたい。
・少し会話をしてしまった。自分だけじゃなくて，まわりの人も助け合うことが大切だと，今日やってみて強く感じた。

・今日は，前よりもかなりスムーズに行動できたのでよかったです。みんなしゃべらず，静かに動けていました。災害はいつやってくるか分からないので，日頃からしっかりと行動できるようにしたいです。

〈実践により明らかになったこと〉

この避難訓練は，2校時と3校時の間に地震が発生した想定で実施し，児童生徒はそれぞれ休憩中や次の学習準備をしている時間であった。

事前指導を行っていたが，避難は，児童生徒の自らの判断で行動することをねらった。また，避難場所について検討を重ね学校すぐ裏手の高台とした。児童生徒にとって日常行くことのない場所であり，校舎内からも校庭からも移動距離が長い場所のため，小学校低学年や特別支援の児童生徒にとっては避難が難しいとことも予想されたが，高学年児童や中学生が安全のために進んでかかわったり協力したりすることもねらった。

児童生徒にとって初めての訓練の形で，自らが避難することで精一杯の様子が見られた。ただ，避難訓練に立ち会った消防署長から「中学生や上学年が下学年とかかわること」についての話があり，【かかわる】ことの必要性や意味を感じ取ったふり返りも多く見られた。

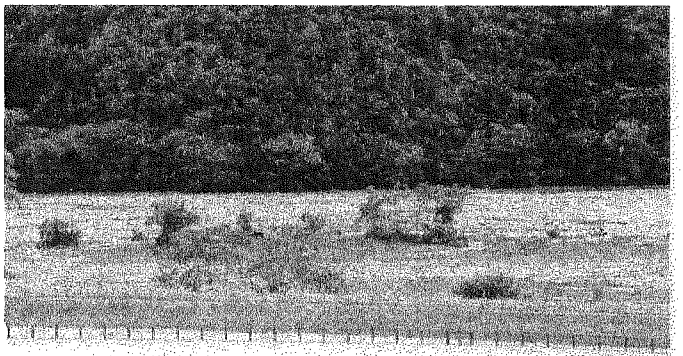
この避難訓練から，児童生徒が，より自らの判断により意志決定したり，周りの状況をもとに行動したりしなければならない形の訓練を実施することが必要であると考えた。さらに，在校時以外（地域や家庭にいる場合）の災害対応について認識を深めるような学習活動を設定する必要があると考えた。

この訓練後，学校運営協議会やPTAと連携し，校地外への新たな避難路および避難場所の設置を町へ要望する動きをつくった。

(2) 台風10号災害とボランティア活動

高台の大牛内地区から海に近い中野地区に学校が移ったことで，防災は地震・津波対策を優先して進めていた。

そして，地域や関係機関との連携が欠かせないと考え，11月の地域防災訓練時に登下校避難訓練を実施する計画を進めていた。



8月31日朝の校庭南側の小本川

そんな矢先の8月30日，台風10号が岩泉町を襲った。30日の夜，学校からは，暗闇の中で小本川の増水によって川岸の樹木が裂ける音が一晩中聞こえる状況であった。

翌日から児童生徒の安否確認を進めたが，携帯電話も通じにくく，特に甚大な被害が出た中島・中里地区については，児童生徒の家に直接行って確認しなければならなかった。中島・中里地区は床上・床下浸水家庭が多く，中学校生徒については14家庭が被災という状況であった。

8月31日朝の中島地区方面

台風10号による被災後間もなくから，生徒たちはボランティア活動に取り組んだ。

生徒によるボランティア活動の形は様々であったが，ほとんどの生徒がボランティア活動に取り組んだ。

自分の家が被災した中学生は家族の一員とし

て，泥出し，家財の片付け，掃除等に励んだ。被災していない生徒も以下のような形でボランティア活動を進めた。

・被災した親類や友達の家での泥あげ，片付け，清掃
・自分が住む地域や近隣の清掃，片付け，土嚢づくり
・学校からの呼びかけによる通学路や地域施設の清掃
・部活動単位の地域清掃

〈学校での呼びかけによるボランティア活動〉

発災後の学校再開日（9月7日）は午前授業であったことから，午後にボランティア活動を呼びかけた。自宅が被災していない生徒たちの多くが集まり，男子は通学路歩道の泥片付け，女子は小本地域防災センター（地域避難所）の清掃活動を実施。

通学路歩道の泥片付け

地域防災センター清掃

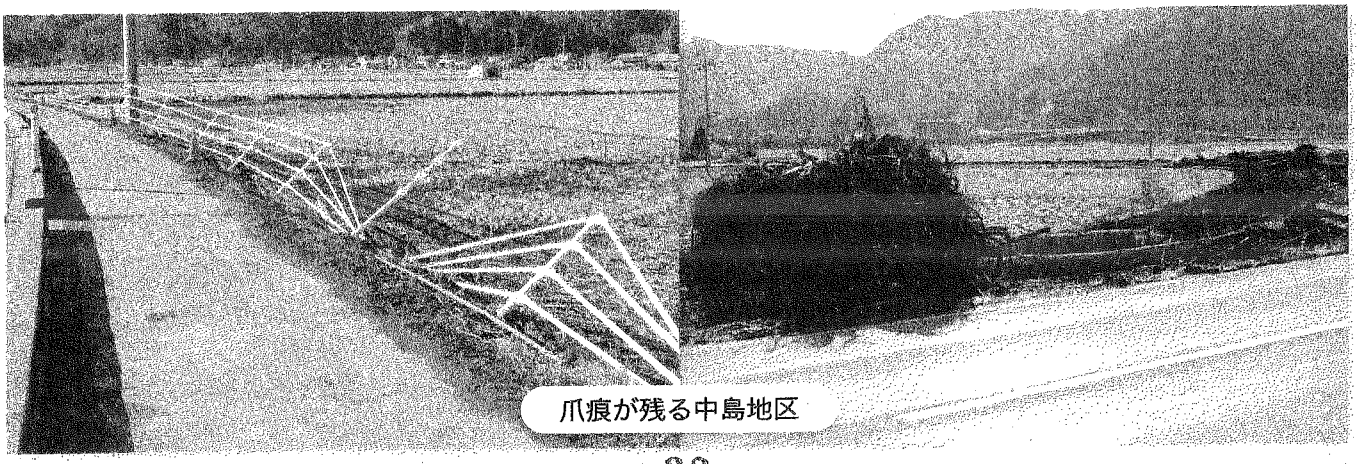
生徒のボランティア活動では，活動しているその場面で，あるいは後日に様々な方から感謝の言葉をいただいた。

このことは，生徒にとって自己有用感を大いに感じることにつながったと思われる。さらに，家庭および地域社会のために進んで貢献することの必要性や意義を改めて感じ取ることができた。

(3) 安全マップづくり

小本中学校では，毎年「地域ハザードマップづくり」を進めているが，今年度は「通学路・地域安全マップづくり」として，総合的な学習の時間において実施した。

台風被害の大きかった中里地区や中島地区では，半年を経過した今なお，その爪痕が残っている。小本川から約500m離れている洪水時の指定緊急避難所となっていた中島地区多目的集会施設に2.4m程の高さまで水が入った。想定外の状況だったことがうかがえる。



爪痕が残る中島地区

そこで，災害では想定外のことが起こりえることも生徒に意識させ，自らの判断で行動選択できるように考えさせていくことも，この安全マップづくりの学習に取り入れることを計画した。

〈防災安全学習指導略案〉

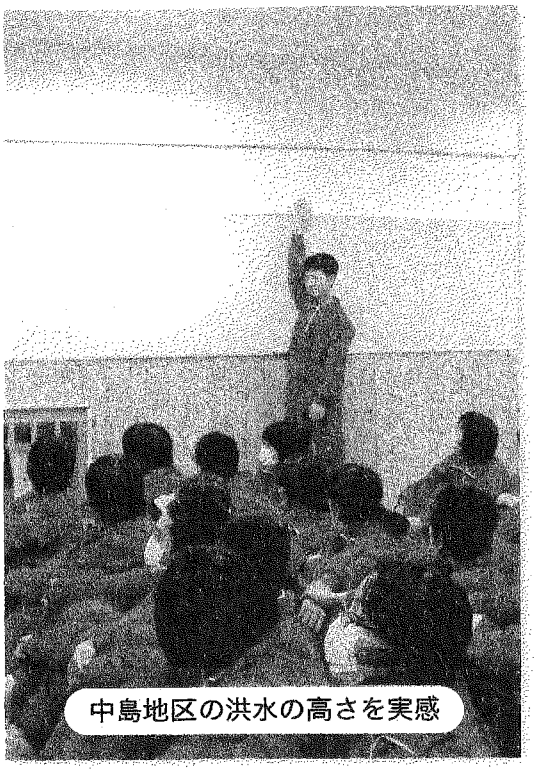
1 ねらい

○ 防災を「自分ごと」としてとらえ，主体的・協働的に行動しようとする態度を育てる。

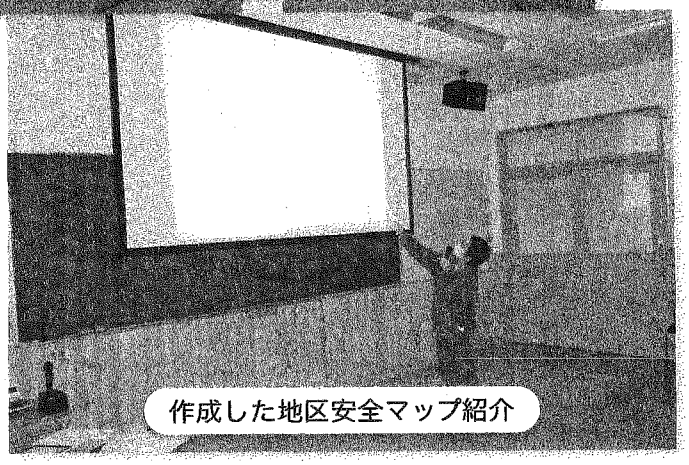
○ 自分の住む地区周辺や通学路について見直し・確認する【そなえる】とともに，在宅時でも在校時でもない場合に災害発生した場合どのように行動すればよいか考えることができる【いきる・かかわる】。

2 展開

| 展開 | 生徒の主な活動 | 指導上の留意点 | 備考(準備) |
|---|---|---|---|
| 導入 | 本時の学習開始における事前説明 | ※気分がすぐれなくなったら申し出ることを確認する | |
| | 1 中島公民館のに台風被害ついて知り，避難場所について見直す意識を持つ。 | ・命を守ることを真剣に考えておかなければならないことを感じ取らせる。 | 写真 |
| | ○中島公民館付近で水位が約2.4m<br>○中島公民館は洪水の指定緊急避難場所 | ・視聴覚室内に2.4mの水位線を掲示し，想定外の避難についても意識させる。 | 地図<br>洪水時の写真 |
| | 2 中島地区の歩道状況について知る<br>・通学路に危険な箇所があること<br>・みんなで理解し合う必要があること | ・国道45号線中島地区歩道脇の柵の写真をもとに通学路の安全について意識を向けさせる。 | |
| | 3 本時の課題を確かめる | | |
| 15分 | 通学路や地区の危険箇所を確かめ，災害時の行動について考える。 | | |
| 展開 | 4 地区ごとに通学路と地域の危険箇所について話し合う。 | ・小本，中野，茂師・小成，中島，中里，大牛内の各地区に分かれる | 地区毎の地図 |
| | 【確認事項】<br>○通学路の危険箇所<br>・通行止め<br>・ガードレール・歩道・橋等破損<br>・歩道がない<br>・陥没，凍結　　等 | ・地区ごとの地図を配布し，危険箇所や避難場所に着いて書き込ませる。<br>・地区担当職員は，T2として各地区の話し合いの中で，左記のような状況がないか助言する。 | 付箋<br>赤ペン<br>黒ペン |
| | ○地区・地域の危険箇所<br>・崖崩れ，堤防破損<br>・道路陥没，破損<br>・土石流危険<br>・熊，ヘビ等出没　　等 | ・仮設住宅に住んでいる生徒は，もとの地区に入って危険箇所の確認をする。仮設住宅付近の危険箇所がある場合は，口頭で伝える。 | |
| | 5 地区で話し合った内容について発表する | | |
| | ○話し合った内容や作成した地図について発表する(発表地区抽出) | ・作成した地図を写真撮影し，スクリーンに投影しながら紹介させる | |
| 25分 | ○マップに写真を入れることを知る | ・各地区の生徒に，デジカメで危険箇所の写真を撮るよう指示する。 | デジカメ |
| 終末 | 6 災害時の行動をもとに「いきる・かかわる・そなえる」について考える | ・在校時でも在宅時でもない場合の災害発生を想定し，自分の行動について考えさせる。 | 場所の写真<br>地図 |
| | ○学校や家ではない場所で近くにお年寄りと幼児がいる想定で考える。 | ・生徒のいろいろな反応を共感的に受けとめる。 | |
| | ○「いきる・かかわる・そなえる」とはどういうことか考える。 | ・本時の学習において「いきる」こと，「かかわる」こと，「そなえる」こととはどういうことか考えさせる。 | |
| | ※振り返りについては，各学級でまとめさせる。 | ・終学活や翌日時間をとってふり返らせるとともに，ボランティアアンケートについても記述させる。 | ふり返り用紙 |
| 10分 | | | |


中島地区の洪水の高さを実感

地区ごとの安全マップ作り

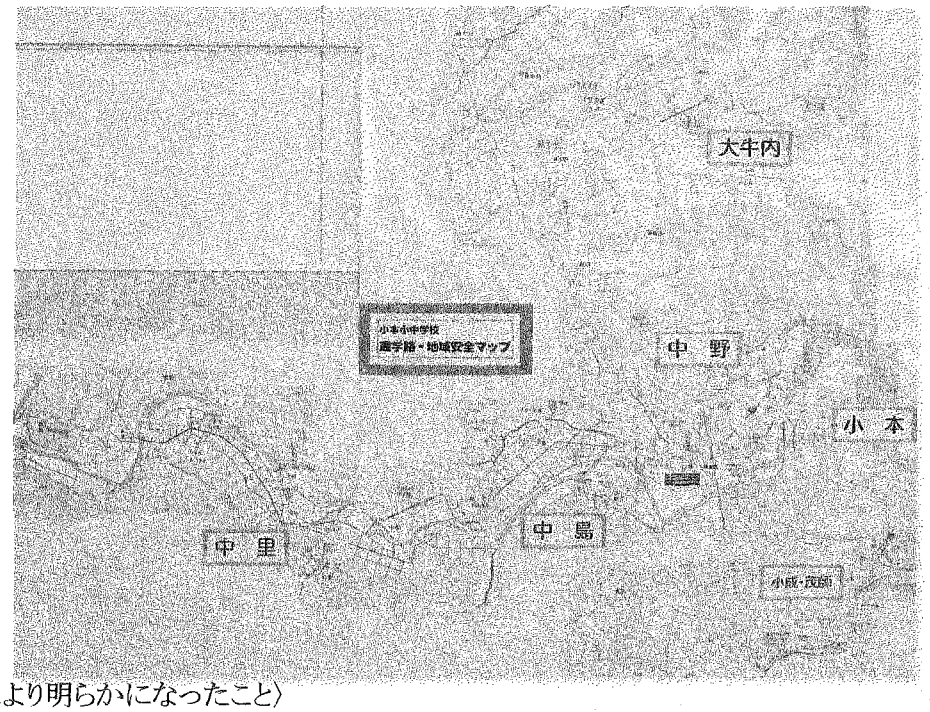

作成した地区安全マップ紹介

〈生徒のふり返りより〉

- 今日の学習で，今まで気がつかなかった所や自分の地区でもわからないことを改めて確認できたし，その危険箇所についてもお互いに話し合うことができた。これから自分たちが生活していく上でこのような会を持つことで，安全につながると思った。
- 思ったよりも危険箇所が見つかったので，自分でも驚きでした。台風の災害があり，崩落しているところや，こわれているところなどがあったので，防災マップを通してしっかりと安全について理解できたのでよかったです。日々の備えが大事だなあと思いました。
- 今日の学習では，自分たちの住んでいる地域や近くの地域での危険箇所について地図に書いて，今まで自分が知らなかったところがあったので，これからは気をつけていきたいと思いました。また，知っていた場所でも意識せず通っていたので，しっかりと自分の地域の危険なことについて忘れないようにしていきたいです。
- 台風10号の影響で地区のほとんどの部分がこわれてしまったので，これからは想定外のことも起きると思い，しっかりとそなえていきたいと思いました。
- 中島の地域のことを聞いて，中野の通学路にも街灯が少ないことがわかりました。また，中野は土地が低いところもあり，どんな水害でも危ないことを知りました。逃げるときはよく考え，行動することがとても必要だと知りました。また，他の地域のことも知っておかないと，もしものときに危ないということも知りました。
- 実際，台風10号の時に自分が被災して，まず思ったことは，正しい情報を得ることが大切だと思いました。その時は，避難準備情報も発令されていなくて大丈夫だと思っていたけれど，すぐに停電し，10分もたたないうちに大洪水が起こったので，正しい情報を得ることが本当に大切だと思いました。
- 災害時では，とにかく大事な物を二階に運びました。避難はできなかったけれど，家でできることはやりました。となりの家の人が無事か考えました。
- 自分の命も大事にすることはもちろんだけど，できることがあったら周りの人の命も助けてあげる。また，災害が起こる前にそなえることも重要で，すべてが自分の周りの人にかかることだし，生きることにつながると思う。

・ふだんあまり行かないような場所で，しかも親と離れている場合や，お年寄・小さな子どもと会ったときはどこに避難するかと聞かれてすぐに答えることができなかったので，そういう場合も想定して日頃から考えていきたい。

〈各地区が作成したマップを合わせた「通学路・地域安全マップ」〉




〈実践により明らかになったこと〉

新校舎への移転による登下校通学路や通学方法の変更，東日本大震災による新たな街づくり，台風10号による被害を含め，生徒に通学路や自分の住む地区等の危険について共通理解をさせることができたことは大きな成果であった。

一方，自分の地域の近くにあるトンネルなどの危険性について意識できていない様子が見られた。スクールバスや自家用車で通ることがほとんどで，徒歩や自転車通学しない通学路については認識が薄くなっていることが考えられる。

本学習は，生徒自身が，主体的かつ協働的に通学路や地域の危険箇所を見直し，「通学路・地域マップづくり」を進め，共有することを主なねらいとしながら，災害等にかかわって，自ら判断・行動する必要性とともに，自他の命を守る行動について考える学習も展開した。

この学習により，危険箇所についての新たな気付きや意識共有が図られたが，中学生がつくった地図を小学生にも理解できるような工夫をし，小学生も共有できるよう掲示することで，地域社会の安全のため協力・貢献しようという中学生の意識をさらに高めることができると考える。

また，作成した地図を地域に発信するなどして，地域にも情報提供したり逆に地域から情報を得たりできる活動へ広げていきたい。

## V-2 成果と課題

(1)成果

○小学校と中学校が連携して課題を持ちながらその改善に向けた避難訓練を実施することにより，自ら判断・行動する主体性や避難時に共助する意識が醸成されたこと。

○防災学習や活動を通して，自他の命を大切にすること，児童生徒どうしや家庭・地域社会と協働することの意味や必要性がとらえられてきたこと。

(2)課題

○災害に対する学校での課題を明らかにし，防災マニュアル・体制を整えるとともに，どのような場面にも主体的に対応できる実践を継続していくこと。

○学校のみではなく，地域や近隣のこども園(保育所)，関係機関と連携する体制をつくり，連携した防災訓練を進め，地域ぐるみでの協働を推進すること。

平成28年度　復興教育全体計画

岩泉町立小本中学校

| 学校経営の基盤 | 学校教育目標 | 情勢 |
|---|---|---|
| ・日本国憲法<br>・教育基本法<br>・学校教育法<br>・指導要領<br>・県学校教育指導指針 | 校訓　：　自主・自立<br>創造性に富み，心豊かでたくましく，主体的に生きる人間の育成 | ・社会の現状<br>・生徒の実態<br>・家庭，地域の実態<br>・保護者の願い<br>・教師の願い |

**めざす生徒像**

1　主体性のある生徒
2　思いやりのある生徒
3　たくましさのある生徒

**本校復興教育の目標**

○地震・津波等の災害の知識を身に付け，行動・避難できる生徒の育成
○家族・地域社会の一員としての自覚を高め，行動できる生徒の育成
○地域の防災文化を継承できる生徒の育成

**本年度の重点目標（○数字は具体の21項目の関連番号）**

| | |
|---|---|
| 【いきる】 | 全ての生命はかけがえのない物であることを実感し，大切にするとともに，夢や希望，自己有用感を持つことは，生きる価値を見出すことであり，つらい状況を乗り越えられることにつながることを実感できるようにする。（①，③，⑤） |
| 【かかわる】 | 安心して生きていくための生活基盤として，家族の一員としての喜びや地域社会においてたがいに支え合う仲間・地域の方々の大切さやありがたさを実感し，他の人や地域社会に役立つことを進んで実践できるようにする。（⑨，⑫，⑬） |
| 【そなえる】 | 避難場所や避難方法，避難経路を把握し手安全に避難するとともに学校や家庭でできる防災対策を行い，災害や事故に直面した際に自他の体を守り，被害を最小限に止める技能を身に付けることができるようにする。（⑯，⑳，㉑） |

**教科・領域・諸教育の指導関連**

| 各教科 | 道徳 | 総合的な学習の時間 | 特別活動 | キャリア教育 | 防災教育 | ボランティア教育 | 交流・連携 | 教育課程外 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ・自分で課題を解決<br>・他者と協働して課題を解決<br>・科学的思考・判断力の育成<br>・災害発生のメカニズムと防災の知識・理解<br>・応急処置方の体得<br>・復興支援や生活を支える人々の仕事や役割 | ・生命の尊重，人権尊重の精神の育成<br>・ボランティア精神，思いやりややさしさの心の育成<br>・地域・文化を誇り思い，大切にしようとする心の育成 | ・地域の災害とその復興の歴史を学び，今後の防災を含めたまちづくりに資する態度の育成<br>・自然体験，社会体験・見学等の体験的な学習により，自分や地域を見つめる態度の育成 | ・日常的な備え，災害時の安全確保，的確な判断等の実践的能力の育成<br>・協力し合い，困難を克服する態度の育成<br>・健康維持，予防対策，および | ・目標の実現に向けた努力と充実感の感得<br>・勤労や生産活動の尊さ喜びの感得<br>・役割や責任を果たす意義と充実感<br>・自己有用感の醸成 | ・危険への予測と備え，安全確保の知識・理解<br>・的確な思考・判断に基づく意志決定や行動選択<br>・自ら安全確保するための行動<br>・学校，家庭，地域社会の安全活動への参加・協力・貢献<br>・避難訓練によ | ・生命はかけがえのないものであり，自他の生命尊重の態度の育成<br>・社会の一員としての自覚，公共のために役立てようとする心情の育成 | ・小中連携による防災安全教育の実践<br>・横軸連携による玉山区中学校との交流<br>・中野七頭舞の地域伝統文化の継承 | ・心のサポート等による教育相談<br>・部活動によるスポーツや文化交流による共生の態度の育成<br>・地区における責任ある活動による自己有用感の醸成 |

| 指導方法 | 学習の評価 | 指導体制 |
|---|---|---|
| ・学習課題の提示とふりかえりを意識した指導の継続<br>・効果的な学習の仕方や発展的な学習課題の提示・提案による指導の工夫 | ・ポートフォリオによる蓄積や形成的な評価による評価の充実<br>・学期末，学年末における指導計画の評価と改善 | ・学年，分掌等の指導複数体制の構築<br>・少人数指導やティームティーチングによるきめ細かな指導体制の構築<br>・支援体制の確立 |

平成28年度　復興教育年間指導計画　1　　岩泉町立小本中学校

○番号は復興における教育的価値21項目番号　※印は復興副読本関連内容例

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科 | | | | | 3年　家庭 | |
| | | | | | 赤ちゃんふれあい体験①<br>※命のゴールキーパー | |
| | | | | | 1年　理科 | 1年　理科 |
| | | | | | 大地の変化<br>※「自然災害のしくみと被害」 | 大地の変化<br>※「自然災害のしくみと被害」 |
| 道徳 | 3年 | 2年 | 1年 | | | 3年 |
| | あなたはすごい力で生まれてきた<br>※「生きる～今，そして未来へ～」 | 心に寄りそう<br>※「傾聴ボランティア」「できますゼッケン」 | 命を助けたい<br>※「何ができるのか」「苦難の時こそ我らの出番」 | | | 森からの伝言<br>「森の防潮堤で命を守る」 |
| 総合的な学習 | | 1年 | 2年 | | | 全校 |
| | | 櫃取湿原自然体験学習⑬② | 地域自然散策⑬<br>※「三陸ジオパーク」 | | | 中野七頭舞伝承⑬<br>※「自前の衣装で郷土芸能復活」 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 特別活動 | 3年 | 全校 | | | | 全校 |
| | 修学旅行④⑩ | 体育祭⑨<br>※「高らかに響け」 | | | | 小中合同避難訓練⑳　※「地域の防災訓練に参加しよう」 |
| | 全校 | | | | | |
| | 小中合同避難訓練⑳　※「そのとき，どうする？」 | | | | | |
| 各種教育関連 | | | 1年　キャリア | 2年　キャリア | | |
| | | | 生き方講座<br>※「なでしこジャパンを率いる佐々木監督」 | 職場体験活動④ | | |
| 教育課程外 | | | | | 地区 | |
| | | | | | クリーン作戦⑬ | |
| | | | | | 生徒会 | |
| | | | | | 横軸連携交流⑩<br>※「今，わたしたちにできること」 | |

平成28年度　復興教育年間指導計画　2　　岩泉町立小本中学校

○番号は復興における教育的価値21項目番号　※印は復興副読本関連内容

| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科 | | 2年　理科 | 2年　理科 | 3年　理科 | 3年　理科 | 3年　理科 |
| | | 天気とその変化<br>※「自然災害のしくみと被害」 | 天気とその変化<br>※「自然災害のしくみと被害」 | 地球と私たちの未来のために<br>※「森の防潮堤で命を守る」 | 地球と私たちの未来のために<br>※「森の防潮堤で命を守る」 | 地球と私たちの未来のために<br>※「森の防潮堤で命を守る」 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 道徳 | 2年 | | 1年 | | 3年 | 1年 |
| | 震災の中で<br>※「笑顔を撮ってプレゼント」「まさき君のピアノ」「そのと | | ぼくのふるさと<br>※「子供達が考える村の未来」 | | よみがえれ，日本海！<br>※「何ができるのか」 | 火の島<br>※「自然災害のしくみと被害」 |
| 総合的な学習 | 全校 | 全校 | | | | 全校 |
| | 中野七頭舞伝承⑬<br>※「自前の衣装で郷土芸能復活」 | 防災教室⑳<br>※「災害時の情報と心理」「そのとき，どうする？」 | | | | メモリアルイベント⑧⑨⑩　※「希望の音色を」「最後はいつだったろう」 |
| | | 全校 | | | | |
| | | 新巻鮭づくり①⑬ | | | | |
| 特別活動 | 全校 | 全校 | | | | |
| | 文化祭⑨<br>※「地域の教訓を語り継ぐ」 | 小中合同避難訓練⑳　※「家族会議を開こう」 | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 各種教育関連 | 1年　キャリア | | 3年　進路 | 3年　進路 | 3年　進路 | |
| | 第一次産業体験④ | | 進路関係指導④<br>※「夢に一歩一歩，コラボ・スクール」 | 進路関係指導④ | 進路関係指導④ | |
| 教育課程外 | 全校 | | | 生徒会 | | |
| | 復興祭⑬ | | | 生徒会交流会⑨ | | |
| | | | | 全校 | | |
| | | | | 助け合い演芸会⑨<br>※「希望の音色を」 | | |

# 平成28年度災害安全計画（岩泉町立小本中学校）

| 項目＼月 | | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 月の重点 | | | 災害時における校地内避難をする | 集団の安全確保ができる | 梅雨期の防災について知る | 地域の防災について知る | 自然災害について知る | 地震や津波から身を守る |
| 道　徳 | | | 生命の尊さ | 集団の意義 | 自主自立 | 法の遵守 | | 自主自律 |
| 防災教育 | 防災学習 | 理科 | ・理科室使用上の注意<br>・実験時の危険防止 | ・理科室の使用上注意<br>・実験時の危険防止<br>・備品点検 | ・理科室の使用上注意<br>・実験時の危険防止 | ・薬品点検 | ・実験の注意 | ・天気とその変化（台風） |
| | | 社会 | ・現代史（阪神大震災、中越地震、スマトラ沖地震）3年<br>・3，11東日本大震災 | | | | | ・自然災害（2年）<br>・関東大震災（2年） |
| | | 体育 | ・集団行動<br>・用具の使い方 | ・体力測定と方法<br>・備品の点検整備 | ・水泳の事故防止<br>・健康管理 | ・備品点検 | ・集団の行動 | ・陸上用具の点検（マット、高飛びｽﾀﾝﾄﾞ、砲丸） |
| | | 保健 | ・心身の発達と健康（1年）<br>・傷害の防止（3年） | | | ・生活行動、生活習慣と健康（3年） | | ・疾病の予防（3年）<br>・自然災害（全） |
| | | 技・家 | 施設設備の使用上の注意 | ・備品点検整備<br>・木工、被服領域の注意 | ・電気器具の使い方<br>・アイロン、ミシンの使い方 | ・備品点検 | | ・工作機械や工具の使い方<br>・食物領域の注意 |
| | | 総合 | | | | | | |
| | 防災指導 | 学級活動（○1単位の指導　●短時間の指導）1年 | ●中学生になって<br>◎自転車の安全な乗り方<br>●通学の確認<br>●部活動の安全<br>◎犯罪被害の防止や通報の仕方 | ●災害時の安全な避難の仕方と日常の備え<br>●障害のある人の行動特性の理解 | ◎水泳の事故防止と安全<br>●雨天時の校舎内での過ごし方<br>●校内での事故と安全な生活 | ・落雷の危険や風水害<br>・夏休みの生活設計と安全、防犯 | ・自分の健康チェック | ・津波の危険と避難<br>・下校指導 |
| | | 2年 | ●通学の確認<br>◎犯罪被害の防止や通報の仕方 | ◎交通事故の防止を考えよう<br>●自転車点検<br>●野外活動の安全<br>●障害のある人の行動の特性の理解 | ◎水泳の事故防止と安全<br>●雨天時の校舎内での過ごし方<br>●登下校のの安全<br>◎性の理解と援助 | ・落雷の危険や風水害<br>・夏休みの生活設計と安全、防犯 | ・自分の健康チェック | ・津波の危険と避難<br>・下校指導 |
| | | 3年 | ◎犯罪被害の防止や通報の仕方<br>●登下校の安全<br>◎心の安定と事故<br>◎修学旅行の安全 | ●自転車点検<br>●障害のある人の行動の特性の理解 | ◎水泳の事故防止と安全<br>●競技大会と安全 | ・落雷の危険や風水害<br>・夏休みの生活設計と安全、防犯 | ・自分の健康チェック | ・津波の危険と避難<br>・下校指導 |
| | | 生徒会活動▲部活動 | ・新入生への交通指導<br>・部活動紹介<br>▲部活動ガイダンス<br>▲練習の進め方指導 | ・委員会の活動確認<br>・生徒総会<br>・体育祭への安全な取り組み<br>▲保護者会 | ・壮行式<br>▲熱中症予防指導 | ・地区生徒会活動（地区集会） | ・2学期の見通し（計画） | ・夏季休業のボランティア活動の反省及び2学期の活動確認の全校集会 |
| | | 学校行事等 | ・入学式・健康診断<br>・避難訓練<br>・春の交通安全運動<br>・交通安全指導<br>・修学旅行 | ・体育祭 | ・地区中総体<br>・学校保健委員会 | ・終業式 | ・地区陸上大会<br>・地区駅伝大会<br>・クリーン作戦 | ・地区新人大会 |
| 防災管理 | | 対人管理 | ・通学方法の決定<br>・安全に関するきまりの設定<br>・バス通学の安全 | ・救急体制の見直し | ・校舎内の安全な過ごし方 | ・長期休業前の安全、防犯について<br>・プールや海の安全と事故防止 | ・地域行事（ボランティア活動）の安全 | ・けがの予防 |
| | | 対物管理 | ・安全点検 | ・学校設備の点検、整備 | ・プール準備及び点検 | ・夏休み中の校舎内外の点検 | | ・運動場の整備 |
| 組織活動 | | | ・春の交通安全運動時の啓発活動<br>・PTA総会における生活部の活動計画の明記（下校指導等）<br>・危機管理体制の研修 | ・情報交換<br>・熱中症予防に関する研修<br>・熱中症に関する研修 | ・地域の危険箇所の点検<br>・ＡＥＤ研修 | ・PTAによる除草作業（通学路の安全、整備）<br>・3.11東日本大震災、津波・地震等の防災に関する研修 | | ・秋の交通安全運動の啓発と街頭指導<br>・避難訓練及び防災に関するの研修 |

| 項目＼月 | | | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 月の重点 | | | 防災について伝える① | 災害時の危険を予測し、判断・行動する | 防災について伝える② | 冬場の災害から身を守る | 防災について伝える③ | 防災についてふり返る |
| 道　徳 | | | 友情の尊さ | 社会連帯 | 郷土愛 | 人間愛 | 生命の尊重 | 社会への奉仕 |
| 防災教育 | 防災学習 | 理科 | ・大地のP変化（火山活動と地震）1年 | ・実験器具の使い方（力学関係器具） | ・薬品検査<br>・理科準備室の整備 | | | ・整備点検<br>・薬品点検（台帳管理） |
| | | 社会 | | | | | | |
| | | 体育 | ・器械運動の注意と補助の仕方 | ・長距離走の健康把握とペース配分 | ・球技用具の使い方と固定器具の注意<br>・ルールの徹底 | ・ゲームの安全<br>・柔道の練習の注意、量の出し入れのの注意 | ・球技のルール、マナーの徹底 | ・器具用具点検 |
| | | 保健 | ・健康と環境（2年）・疾病と予防（3年） | | | ・健康と生活（3年） | | |
| | | 技・家 | ・塗装時の換気<br>・ガスコンロの使い方 | ・金属材料の性質と切断<br>・木製品の利用 | ・暖房と換気について<br>・調理実習の注意<br>・整備点検 | ・電子機器の利用と安全 | ・作業場所の確保と危険の回避 | ・備品検査（台帳管理） |
| | | 総合 | | ・地域ハザードマップの作製と継承 | | | | ・3.11メモリアルイベント |
| | 防災指導 | 学級活動（○1単位の指導　●短時間の指導）1年 | ◎交通法規の意識<br>●自転車の正しい乗り方<br>●文化祭の準備と安全 | ●自転車の正しい乗り方<br>●交通事故の加害と被害<br>●登下校の安全 | ●冬休みの生活設計<br>◎災害への備えと協力<br>●火器の注意 | ●自分のチェック<br>●冬のスポーツと安全 | ◎降雪時の安全<br>●けがの発生とその予防 | ●1年間の反省<br>●3.11を振り返って（防災） |
| | | 2年 | ◎交通事故の原因と安全<br>◎部活動の安全とリーダーの役割 | ◎交通事故の加害と被害<br>●登下校の安全 | ●冬休みの生活設計<br>◎災害への備えと協力<br>●火器の注意 | ●自分のチェック<br>●冬のスポーツと安全 | ◎降雪時の安全<br>●けがの発生とその予防 | ●1年間の反省<br>●3.11を振り返って（防災） |
| | | 3年 | ◎交通事故の原因と事故の特性<br>●自転車の正しい乗り方 | ◎交通事故の責任と保障<br>●登下校の安全 | ●冬休みの生活設計<br>◎災害への備えと協力<br>●火器の注意 | ●自分のチェック<br>●冬のスポーツと安全 | ◎降雪時の安全<br>●けがの発生とその予防 | ●1年間の反省<br>◎学校、教室環境の整備修繕（奉仕活動）<br>◎高校入試への対応<br>●3.11を振り返って |
| | | 生徒会活動▲部活動 | ・文化祭 | ・文化祭反省<br>・自転車点検<br>・生徒会引き継ぎ会 | ・2学期のまとめ（成果と課題）の全校集会 | ・新入生1日体験<br>▲冬季に多い障害予防指導 | ・3年激励会 | ・1年間のまとめと新年度の準備（体育祭へ向け） |
| | | 学校行事等 | ・文化祭<br>・職場体験学習<br>・鮭祭り | ・新巻鮭づくり | ・学校保健委員会 | ・総合発表会 | ・新年度企画会議<br>・新入生保護者説明会 | ・卒業式 |
| 防災管理 | | 対人管理 | ・文化祭の準備と安全<br>・電気の使い方<br>・スポットライトの取り扱い方 | ・自転車の正しい乗り方と危険防止（反射材、灯火） | ・避難時の約束 | ・通学路の見直し<br>・安全な登下校について | ・施設設備の安全な使い方 | ・1年間の人的管理の評価（けがの状況等） |
| | | 対物管理 | ・避難経路の確認<br>・防火設備用具の点検 | ・安全点検整備 | ・水道の凍結防止（止水）<br>・積雪等の注意点検 | ・安全点検整備（通学路） | ・学校備品の安全点検 | ・1年間の安全点検の評価 |
| 組織活動 | | | ・校内の点検 | ・冬季通学路の点検<br>・自転車の安全に関する研修 | ・年末年始の交通安全運動の啓発 | ・3.11東日本大震災、津波<br>・地震における大災害の対応啓発<br>・応急手当と緊急時校内体制連絡体制 | ・PTA専門部（総務、厚生、研修、生活）の反省とまとめ及び学年PTA活動のまとめ | ・地域の交通安全指導<br>・校内事故発生状況と安全指導に関する研修<br>・3.11への対応（指導）の確認と準備 |